女學雜誌

一冊六錢

各土曜日發兌

第百九拾九號

當府內無郵稅

郵稅五厘

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 199. 8TH FEBRUARY. 1890.

EDITORIAL :—If there were no Newspapers, there would be Peace in the World.
Do any evil effects remain after the Abolition of Licensed Prostitution?

LEADING ARTICLES :—"A true Patriot." Human Nature.

CRITICAL NOTES :—"The English Puritans." "Yenka-Bishio" by Koyo Sanjin.

MISCELLANEOUS :—The Cabinet Ministers. A Fine Story of a Mother. The Zeal of a little Girl. Twelve Main Newspapers of Tokyo. The Onko-Chishin. Uses of Salt. Health and Education. Children's sleep and their clothings. The clothings and temperature of the body.

NOVEL :—The Story of Innac Ardene.

CONTRIBUTED ARTICLE :—Death of Mr. Nieshima. A Good Will of the "Women's White Ribbon Club."

OPEN LETTERS :—An Inquiry.

NOTES AND NEWS.

第百九十九號目錄

社説　新聞紙なくんば天下太平なり○公娼廢後の弊害如何

論説　眞正の愛國者○人情論(補遺)

批評　英國清教徒記事○紅葉山人の「拈華微笑」

雜錄　卿相諸公○母親の美談○夕ぐれの春○小女の熱心○東京十二大新聞○溫故知新○鹽の功能○教育と健康○臍太のしれもの○小供の衣服及び眠り○寒暖と食物との事○ウイリアム、ウオルヅウルス傳

小説　イナツク、アーデン物語

寄書　新嶋君の逝去、婦人白標倶樂部の好意

開書　交詢

時事　二月十一日○森君を追弔す○名譽○議員候補競爭者○君子は蘭の如し○自由教育、自由教會○墓地番人○國家天下の師○僧侶の鑑○ゾラの小説

女報　皇女降誕○御息所出發○中山慶子○汲泉會○國文國史講習所○三嶋醫學士○婦人矯風會○禁酒同盟○矯風同盟○玉枝女史○德川秋子○貴婦人法話會○高等中學女子部○海老名みや子○刺繡塲○英國女檣橫張家死す○女詩人○女子撰擧權

WOMEN IN JAPAN.

(1) *The Young Men's Christian Association and of the Womens, of Shitaya, have lately printed a leaflet, strongly advocating the need of abolition of prostitution, and they have been distributing the same among the officials of the Government, members of the Young Men's and Women's Christian Associations of Tokyo, Governors of the Provinces, and members of all the Provincial Assemblies of the realm.*

(2) *Last Saturday, Messrs. Ishisaka, Hoshino, Hiraiwa, Kato, Iwamoto and others delivered lectures concerning the need of Abolition of Prostitution at the Ōyukan, Asakusa, Tokyo. During the last week, there were delivered in Tokyo, several other lectures and speeches on the same subject.*

(3) *In the Provinces of Kochi, Fukuoka, Aichi, Yamanashi, Hyogo, Kioto, Fukui and Niigata the subject of abolition of licensed prostitution is warmly advocated.*

(4) *Miss Y. Shimidzu, who is a zealous advocate of the Woman's Suffrage, is said to be undertaking the formation of a Liberal Assosiation of Women at Kioto.*

(5) *The Independent Girls' School, established at Shinjiku, has just obtained a Government sanction. There are some forty pupils already and they admit sixty pupils more for day-scholars. The aim of this school is to give a general and technical education to girls.*

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百九十九號
明治二十三年二月八日發兌

社說

○新聞帋なくんば天下太平なり

秦の始皇帝六國を併せ天下を總べ治めんとして、丞相李斯の言を用ひ儒生を坑に埋め書百万卷を燒きたり。吾人思ふに儒生を殺すとは寧ろ無道なり書を燒くとに至りては大に怒すべき者ありと、否ぁ燒くとの怒すべきにあらず之を疎んじて遂に燒くに至りたるの情大に察すべき者ありと思ふ也。

天下大率ね靜けき海原の如し、たゞ之を蕩かして怒濤狂瀾を捲き起すは、無用の議論にてあるなり、議論もと根なくして起れど騷々として喧びすしきときは、無中有を生じ、瓢箪より駒を走らせ、灰吹より蛇を出すの事なきにしもあらず、市に虎ありと云ふと三度なれば虎なしと云へども虎あるが如くに騷ぐものあり、天下もし無用の議論に騷がしきときは、蛇なしと云へども蛇出でたりとし、駒走らずと云へども走れりとし、有るとなしと云へども有るとありと云ふもの加はる、茲に於てか天下囂々として四海狂亂す。

左れば秦の天下を安んずるの一策は、無用なる迂儒を殺し、議論の種となる書籍を燒き、總じて論題を亡ぼし、論口を塞ぎ、万事一新の見識を以て現に譽しとするとを善しとなさしめ之を万民に歡呼喝采せしめんとはなす、蓋し此の一策の正否長短は暫らく言はず、或る時の間だ斯くして天下を太平になし得るとは寧ろ得て望むべきの事とす。

吾人つら〳〵考ふるに、日本近事の騷動は大抵新聞帋より起れり、新聞帋喧すしく述べ立てゝ即はち天下亦八釜しく反響し、所云る輿論なるもの乍ち製造せられて驚ろくべきの新現象突兀として噴き出で來る、抑も新聞帋が喧びしく言ふものは先づ民に其聲ありて彼れ之を代言するものか、或は亦た新聞帋先づ聲を發して万民之に傚ふもの乎、民先づ言ふ所ろありて而して后ち新聞帋に映ずるときは是れ真誠の輿論なり、然れども近く二三年間に起れる我國新聞帋の容色を覗ふに、輿論の製造せられたるもの少しとせず、たとひ之を製造せるとあらずとするも人の誤つて之を輿論とし俄に驚愕周章したるとも亦少なしとせず、新聞帋一二回述べ立れば衆口乍まち之に應じ、新聞帋更に一二回書き立れば人乍まち之を輿論と認め、輿論此に於てか街間に偶生し、根なくして鬱然蒼然として繁る、傍より之を見るに笑ふに堪へたり、當路の人

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

と云へども若し波部風和の后ち一顧再思すれば、意外にも其の小膽ありしとに氣付きて、慚愧万々の事之れなきにしもあるまじ。

概するに今の新聞紙は政治上の事をのみ書き立て、世上万象の景たゞ政治上の事をのみ重しとすと考ふるに似たり、其社說は十に九迄政治論なり、其雜報は十の九迄で政治上の事あり、而して其他國家に大影響ある農工商文學宗敎美術等の事に至りては寂として論述せず寥として記載すると少なし、甚だしきは役員が出入往來を事々しく書立て、其の心中に思ふ事（此事たるや何人にも分る筈なく又當人にも確と定まり居らざるの事なり）を業々しく揣摩し、天下の景勢は役人の一顰一笑にでも關する如くに掛念し乍ら、他の更に大切ある幾多の出來事には頓と留念せざると少しとせず。

斯て其記事多くは政治上の事なるが故に、政海に一微動あるときは「唯此耳」と執着して大筆廣述し、今日も明日も明后日も横より縱より上より下より色々に眺めすがめて其の一微動を書き立て、いよ／＼之を衝突きて乍まち紙上の大輿論となし來る、小膽の政事家此に於てか一瞥して喫驚し、四面皆な楚歌なりと聞ちがへて俄然落下轉倒す。

此時眼こを擧げて細かに天下の景勢を察れば、百姓は靜かに田を耕やし、商人は一心に算盤を彈き、大工は綿密に尺度を測り、女は打笑みつゝ縫物し、敎師子弟は嚴然として學問す、たゞ一部分の書生が八釜しく言ふと、無責任の論者が演說すると、新聞紙面のにぎやかなるとある耳。

故に吾人は新聞紙に望む、新聞紙面の記事更に百工百藝に渉り、眞に實社會の實勢を寫出するに至らば天下は太平なるべし、亦た今の新聞紙を讀むものは餘り直樣其の記事に驚天せず篤と再考して輿論の眞に在る所を察するあらば、天下は即はち太平なるべし。

近來新聞紙の調子少しく一變せんとす、喜こぶべきと也、特に國民新聞の如く文學的ならんとするものも新に起り、江湖新聞の如く殖産宗敎的ならんとするものも新に起り、貿易新聞の如く貿易的ならんとするものも新に起りたり、從來の諸新聞と加味調合して其塩梅を宜しうするに於ては、今后日本の輿論恐らくは新聞紙上に眞寫せらるゝに至らん、此に至つて天下は常に太平なるべし、故に吾人は先づ之を祝すると云ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○公娼廢后の弊害何如

問　妓樓全廢、公娼禁止、の事至つて美事には候へども、之が爲め密賣淫大に增殖し、梅毒甚しく蔓延致す時は、其害一層の事と掛念され、頗ぶる廢娼斷行の着手に狐疑仕候。

答　一應は尤もある御心配あれども、實際は決して然ると無之、妓樓の公娼を廢止したるのちは、密賣淫反つて今日よりも減じ、隨つて梅毒も少く相成べしと存じ候。

問　意外の仰せかな、夫は何如ある理由ある御事に候。

答　御不審尤もに候、成程一時は密賣淫も增し可申、付ては梅毒も蔓延致す可しと云へども、此れ即はち密賣を減じ梅毒を少くするの方便と相成るものに候。」元來人の情慾と申すものは、之を制してこそ或は制せらるゝものあれ、若し之を擅ひまゝにして自由に滿足せしむる時には、其慾次第に募りていよ〳〵制しがたく、遂には自力にて如何にとも致しがたき所云る情慾の奴隸と成るものに候。扨て妓樓を公けに置き公娼を官許して万人に遠慮なく遊蕩せしむるとは、人をして其情慾をいよ〳〵我儘に滿足せしむるの處置にて、即はち人をして其の自ら制する謹愼の裁制力を歩々段々に失わしむることにて候。左れば、公娼公然として存するときは、人の情慾をして跋扈せしむるといよ〳〵甚しく、慾の炎ます〳〵猛烈となりて、姦淫の惡習追々と盛んになり行き、到底風儀を淸くし、娼妓を減ずる等の事は思ひも寄らぬことと成るものに候。然るに其害は獨り之のみあらず、此の惡習はいよ〳〵長じていよ〳〵妓樓を入用する上に、更に數多の毒惡を全地一面に押流すものに候、先づ茲に盜みする癖の者ありと致さんに、此の如き人間は之を制して其癖を壓ゆる樣にしてこそ或は其の惡癖を癒やし得ることとの候はんものを、寧ろ之に命じて云ふに、汝ぢ其慾の起りたるときには或場所に行て之を滿足せよ、然し乍ら其他の場所に行ては決して盜むこと勿れと、斯樣に許し且つ命じ措けば、其人はたゞ彼の定まりたる場所にてのみ盜賊を爲し他の場所に於ては聖淨潔白にて行ひ澄まし居るべきかと申すに、何如に人情に迂なるものにても實に左樣なりとは申されまじ、然るに男女間の情慾は彼の盜みするの情慾に比較して一層激烈なるものあれば、一と度び之を擅ひまゝに滿足するのくせを付れば、爾來いよ〳〵猛烈の火をもやし、何處にても其便を得て鬱情をはらさんとは熱望することに候半、左れば妓樓に於てのみ姦淫し、其外に於ては爲さずと云ふ如きことは決して望み信ぜられまじきことにて、若し便

利あらば、何處に於ても慾を散ぜんとするに相違なし、夫故妓樓のある近邊に密賣淫尤も多く、風儀尤も亂れて私通姦通の非常に多きとに候。左れば、公娼を公けに置き、人をして遠慮會釋なく之に陷いらしむるときに於ては、啻に其人をしていよ〳〵ます〳〵情慾に猛烈ならしむるのみならず、隨つて其の猛烈の情慾を種々の惡むべき方便によりて滿足せんとするに至らしむるとに候。然るに玆に妓樓公許を止め、公娼を廢するときは、たとひ一時密賣淫增殖いたすとも、密賣淫は即はち密賣の淫にて密かに淫するものあれば、其の密かにすると云ふ丈けが既に幾分の制裁力を加へたるの理に候、密かにするは恥づるの始にて、恥づるは愼しむの始めなり、シテ愼しむと云ふ情起りて即はち初めて制すると云ふ心起り、先づ制するの心起りて之より次第に惡習を減ずるに至るものあれば、たとひ一時密賣淫增殖すとも、其のすでに密賣淫となりし丈が人に慾を制するの力を增し與へたる譯にて、取も直さず、夫丈け姦淫を恥ぢ、姦淫を制するに至らしめたるとに候、而して姦淫を恥ぢ、姦淫を制するに至るは即はち姦淫を減ずるの基ひにて、姦淫の減ずるは言ふ迄もなく密賣淫を減ずると同樣にて候へば、玆に妓樓を廢止して一時密賣淫增殖したりと云ふとは即はち幾日密賣淫の減少する根本となるものにて候。又更に一つ明白なる證據を擧げ申さんに、現今遊廓に遊ぶ人々の中には、第一クセ習慣の上よりたゞ遊興保養の心持にて參るものあり、第二交際ツキ合ひの上よりたゞ接待親睦などの意味にて參るものあり、以上二つは決して情慾猛烈にて致し方なく參ると云ふ人種にはあらず、其證據には斯る人種は大抵家を持ち妻子ある身分にて即はち肉慾上噴火山の火を吐出す必要に驅られて參ると云ふ人にあらぬとは明白にて候、又第三には誘われ招かれて參るものにて、之は非常に多く有之候、一躰新聞紙などの廣告は何故キ、メある乎と云ふに人の目に多く觸れてこれを誘ひ招くが故にて候半、彼の巍然たる妓樓公然たる公娼は即はち一種の大廣告にして人を招き誘ふと大層にて候、左れば現今遊廓に行く人間の中ち、招れて行くもの、交際の爲に行くもの、クセの爲に行くものと、斯樣に三種あるが、其人數の何程たるやは固より不分明なれど、遊客中の大多數にてあるとは明白にて候。然らば公娼を廢し、夫が爲に密賣が出來たりとするも、先づ交際の爲に密賣淫に行くものは殆んど之れあるまじく存ず、次にクセの爲に行くものも、其クセたるや若し公娼の許に始終

勝手に參る時に於ては永久其クセを制することを得ざるべきが既に密賣と云ひて兎角人に隱れて私かに參へると云ふやうにあれば即はち其クセを幾分か制し矯むるの習慣を生ずるの譯ゆへ、第二に彼のクセの爲に行くものも密賣淫となりて后は幾分かは減ずべし遂には大ひに減ずべしと存ず、、最后に誘はれて行くものも、密賣淫に誘はるゝことは餘程少なきに相違無御座、諺に美人と云へども暗黑場裏に秋波を呈すれば人之に迷はさるゝことなしと申して、廣告の利益を證據立るもの有之候が、密賣淫は即はち廣告せざるものゆへ、たとひ彼の美人ありとするも暗陰に媚を呈するの喩への如く、人を招き誘ふの力は餘程少なきことにて、即はち之に迷はされて參るものも餘程減ずることと存じ候。然らば妓樓全廢公娼禁止の后ち一時密賣淫は增殖するとするも、玆に此の廢禁と共に、從來遊廓に遊びたる人々の大多數は殆んど自ら制しつゝしむ樣に相成り、即はち姦淫を犯すものを大ひに減少したるの理なれば、姦淫を犯すもの減ずれば即はち夫丈に密賣を要するものも減ずるの道理にて、密賣淫は遂に大に減ずべしと想像せらるゝことに候。 以上申すことは決して空想にあらず、たとひ一時に密賣淫を減じ得ずとも、先づ姦淫を恥ぢ、姦淫を愼しみ、姦淫を制し、遂に姦淫を惡くむの氣風を一方に於て段々に發成する時は、即はち社會に於ける姦淫の犯罪を減ずるの譯にて、姦淫犯罪者を減ずるは即はち密賣を買ふものをも減ずるの理あれば、たとひ一時密賣淫增殖する如くにて候とも、遂には減じ可申と云ふは至當明白の理論にて有之、而して如此く姦淫を惡むの氣風を作るには、姦淫公許（寧ろ姦淫保護奬勵）と同樣なる妓樓公許を先づ第一に撤去せざる可からざることに候。故に妓樓全廢公娼禁止と共に一時密賣淫增殖するも其の增殖するは異日大に減ずるの基ひなりと信ず、少さか掛念なく斷々乎として廢娼を實行すべき事に候。

問　承はり候、然らば梅毒蔓延の事は如何に候、密賣淫增殖して此の恐るべき病毒大流行せば衛生上莫大の弊害を生ずべしと之のみ心痛いたし候。

答　之また前と同一の覺悟を要することに候、先づ前に申せし如く、密賣淫は一時增殖すとも遂に減ずるものゆへ、梅毒も一時は大に蔓延する如くなれども遂に亦た大に減ずるものに候。 特に梅毒の蔓延することは即はち密賣を安んじて買ふことを制するものとなり、其蔓延いよ／＼甚しければいよ／＼密賣淫犯者を減ずることと可相成、即はち米麥の種先づ腐り、腐

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

敗の中に芽を生ずるの理法にて、梅毒の蔓延は即ち梅毒の蔓延を區ぎり限るの御裁力となり、遂に其蔓延の區域を押し狹ばめるものに候。

問　伺ふ所ろによれば略ぼ瞭解は致し候もの丶尙ほヒタと覺悟いたしがたく、何となく不安心にて勇氣出でず困り候、一層の垂教願はしく候。

答　御尤もの仰せ、之は姦淫と云ふもの丶毒惡を深く御承知なきゆへと存じ候、女學雜誌前三號に於て姦淫の弊害の恐るべく驚ろくべきとを述備候に付、一と先づ之を御覽下され、篤と姦淫が一個人、一家、一國の上に及ぼす毒何程にてあるかを玩味あされたく候。　姦淫の毒彼れの如く甚しきに付、之を公許し保護し更に獎勵すると云ふは何物にも優るの大害惡なれば、妓樓公許公娼存置と云ふは密賣淫增殖などよりは一層恐るべきの弊害を生ずるものに候、故に公娼廢止后たとひ密賣淫永久に大增殖すとも、尙ほ公許公置を止めたる方が利益あり正純たるとあれば、何如にもして左樣に盡力すべき筈あるに、否な如此せば密賣淫も遂に減ずべしと信ずるが故に更にいよ〳〵つよく之を主張せざるを得ざるとに候。又梅毒も恐るべき病ひには相違なしと云へど、人の靈性上に罹る一層大害ある毒病の全地滿土に流布し蝕入するとを見るときは、よしたとひ梅毒は永久蔓延すとも尙ほ彼の靈性上に於ける大害毒の爲めに一層憂ふべき筈に候、肉躰上の梅毒は之を犯せし人にのみ罹るの病なれども、姦淫公許の大害は國民人々の上に汎ねく大感化して其一個々々惣躰の靈體中にくひ入るの大病なれば、寧ろ之をこそ更に多く心配すべき筈に候、夫故公娼廢止后よし梅毒は常に蔓延して止むとなしとも尙ほ國民惣躰の道德を大害するの病元を取去りたる方が遙かに利益あり正當なるを以て何如にもし斷然左樣に盡力すべき筈なるに、否な如此せば梅毒蔓延の區域も遂には大に縮まるべし狹まるべしと信ずるが故に更にいよ〳〵強く之を主張せざるを得ざるとに候。

問　堅實に相分り候、然る處ろ茲に好し公許を止めたりとも内面に密賣あらば同じきとに非ずやた丶外面のみを飾るとは宜しからずなど申す論者あり、何如の者に候乎。

答　是亦前に申せしとにて十分に答へ得たる筋に候が、凡そ右樣の愚論は實に憫れむべき者に候、人世を黃金世界にするとは中々容易に出來がたきとにて、姦淫を殲滅するとあどは決して百歲五百歲の間だにて出來るものに候はず、然し追々

に之を減ずるやうに盡力するとは一日も怠る可らざるとに候が、扨て之を減ずるの順序を申せば、先づ公に放任して頓着せざりしものを、密かになし隱れて爲すやうに取締り、斯くして之を恥ぢ之を愼しむやうに爲させ、其習慣久しく熟して遂に社會が之を惡むやうに至らせ、斯て其惡むとを益々强くならしめて漸次に之を壓つぶし碎き亡ぼすとにて、何物も皆な如此き順序にて進歩いたし候。左れば公娼を密娼にするは一段の進歩を爲すわけにて即はち最后の圓滿に一歩進みたるとに候、決して公と密と同樣なりなど申すとは無之候、世に賄賂を取るものは絶へざるやうなれど、之を政府が公許して措くと、密かに爲さしむるとの相違は極めて明白の事にあらずや、左れば姦淫を犯すものをよく全滅し得ずとも先づ之を密かに爲さしめて遂に之を亡ぼすに至らんとの存意なるは、彼の盜賊を取しまると、ばくち打を禁止するとと同一の理に候。

問　然し英國には密賣淫横行して其害甚烈なりと申し候、かくありては密賣淫の害の方一層甚しと存じ候、何如。

答　英國の密賣は殆んど密賣淫にてなく、寧ろ住ひを散じたる一種の公娼の如きものに候、「密賣淫二十万人あり、白日横行す、警察署の隣にも密賣す」などと申す者あるが、斯く人數迄明らかに分り、警察署の隣にて營業すると云ふ樣にては、之は密賣淫にては無く、矢張り公賣淫にて、日本の公娼と同じく只だ場所を散じたる迄に候、之にては私共の申す密賣淫とは相違いたし候、密賣淫は即はち密賣淫にて密に賣るやうに取しまると大切に候、英國は密賣淫の取しまりを爲さず之を放任いたし措くゆへ、たとひ公許にはあらずとも公認の姿にあり矢張り公娼の類にて候、故に英國の密賣淫の例を引くは誤りたるとにて蘇格蘭グラスゴーなどの例を引てこそ初めて密賣淫の結果が分るものに候。密賣淫は密賣淫たらしめ、警察署に於て嚴密に取しまり、私立廢娼會員なども十分に助力して、其の密賣者を社會の下層内面に隱れ居る樣に壓へ付くるとが極めて大切に候。其の取しまり方には警察署にては、密賣淫犯者に罰金を科し刻名を記錄し再三犯すものは公民權を奪ひ若くは其地内の住居を禁じ又發見の都度男女双方の黴毒撿査を爲して病あるときは入院せしめ其費用を自辨せしむるやうにするなど色々の法方あるべく、私立廢娼會にては、各市區に會員を募り會員は密賣者を告訴するの義務を負ひ且市區同住の民に訴へて如此き密賣者を其市區内に住居せしめざるやうに盡力するなど樣々の法方あるべく存候」斯して密賣

は眞の密賣たらしめ、密かにし耻ぢ隱れると申すやうにあらしむれば社會の風儀は漸次に引しまり、男子の道徳も段々に堅固貞操となり、惡習慣一變するの期に至れば密賣の頓に減ずると鏡に懸て見る如くにて候。

扨て次號には種々の非廢娼論を一々駁擊辯難可致候。

論說

○眞正の愛國者

同志社　紫　洲

基督教と愛國心の關係に就ては世これを危ぶむもの尠なからざるが如し、嚮に小崎弘道氏が基督教と國家なる著述を成されしも之がためなり、抑も眞正なる愛國心とは如何なるものなる乎、六合雜誌第百八號デフオレスト氏の一篇を讀む諸君は之を知ると難からざるべし。

昔者キリストの將に橄欖山を下らんとするやエルザレム城中を俯瞰して覺えず潸然として淚を流して曰く「もし爾だにも今この爾の日に於て爾の平安に關れることを知らば福あるに今あんぢの日に隱れたり爾の敵なんぢの周邊に壘を築き四方より圍み攻め爾と其中なる兒女を擊ち滅ぼし石をも石の上に遺さゞる日きたらん」と是皆禍機の伏するところを察し人々泰平無事なりと言はんとき滅亡忽ちに來らん」とすることを思ひ愛國の誠衷、坐視するに忍びざるの情を示すものに非ずや、彼の此言は預言者の口氣を以て語れりと言はんよりも寧ろ愛國者の語調なりと言ふべし、使徒パウロの如きもまた實に能く其師の心を繼げり、其羅馬に在る聖徒に與ふるの書に曰く「兄弟よ我心に願ふところ、神に祈るところは、イスラエルの救はれんとなり」と又曰く「我れキリストに屬けるものなれば我言は眞にして僞なりし且わが良心聖靈に感じて我に大なる憂あることと心に耐へざるの痛みあることを證しす若わが兄弟わが骨肉（イスラエル人を指す）のためならんには或はキリストより絕れ沈淪に至らんも亦わが願なり」と彼が其の傳道の一生は常にイスラエル民族の嫉惡するところとあり「四十に一を減じたる鞭を受け三たび條にて撲れ一次石にて擊たれ」たれども怨まず怒らず切に彼等の頑固執拗なるを憐れみ如何にもして彼等の眼を開き彼等の心を明らかにせんと焦心苦慮し若し彼等に益あらんには己を滅ぼすと雖ども悔ひざりしあり、是皆偉大なる愛國心、非凡なる愛國者に非ずや、古語に曰く忠臣、孝子の門に出づと、余は言はんと欲す愛國者、基督教徒の中より出づと、苟くも歐米古今の歷史を味ふもの

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は余の言の僞らざるを知らん。

此に余の殊に幸なりと思ふは余の言を證すべき實例の今吾人の前に立てるとなり、數日前永眠に就かれたる故同志社總長新島襄君嘗て米國に在るの日、演說する每に語尾必らず曰く願はくは諸君日本國を懷ひ玉へ、と彼は封建專制の天地を脫し走つて海外万里の異鄕に在り和語を聞かざると久しく年を閱すと雖ども未だ嘗て一日も大日本帝國を忘れざりしなり、彼の愛するところは富士の山、琵琶の湖には非ず、彼の忘れざりしものは吉野の櫻、加茂の水には非ざりしあり、彼の胸中眷々として忘れんと欲して忘るゝ能はず寤寐念頭に往來せしものは唯日本帝國人民のみ、然り此三千九百万の同胞兄弟なりき、一學生一夜彼を訪ふ話次我國のとに及ぶ彼兩眼に淚を浮めながら身を震はし聲を變じて曰く余のごときものにても若し我日本國の益を計るとを得べくんば………と彼が同志社大學設立の企を爲すも亦たゞ我國人民を愛し我國に眞正の敎育、精神的の敎育を旺盛ならしめんと欲せしがためのみ故に彼の之がために第二次の洋行を決するや、醫その躰衰ろへ迚も長途の航海に堪ゆべからざるを知り、友その思ひ止まらんとを勸む、彼は斷乎として動かず曰く。我すでに覺悟ありと、彼は初めよりして死を決せり然り彼は敎育のために學校のために大日本帝國青年のために死を決せるなり、是豈眞正の愛國者に非ずや、若し戰場に死するを以て愛國者の本領なりとせば彼は實に眞正の愛國者として平和の戰場に打死せるものなり、若し國益を圖るを以て愛國者の精神とせば彼は實に眞正の愛國者として敎育を以て國を益せるものなり、忠勇義烈彼の如く、剛毅堅忍彼の如く、献身盡力彼の如く、謙卑遜讓彼の如くにして、其事業また既に我國に顯著なるものあり、吾人これを愛國者の員に列すと謂はずして、寧ろ愛國者の純の又純、優の又優なるものと爲すなり。

既に基督敎は斯の如き眞正の愛國者を生じたり基督敎は將來に於ても亦た幾多の眞正なる愛國者を生ぜんとす世人乞ふ危疑躊躇すると勿れ。

○人情論（補遺）　　雁陵生

一の宗敎家あり吾人に謂て曰く汝何を以つて不平なるかと吾人答へて曰く金なきが爲めに不平なりと宗敎家冷然として曰く是れ汝ち自から汝ちの頭を撲て痛しと叫ぶが如し怠惰にして金なきは當然にあらずやと又一の哲學者あり曰く怨恨は女

性の特有物なり男子にして怨恨を含むは實に不淡泊の甚しき者なりと吾人は哲學者に謂つて曰く夫子は未だ怨恨すべき境遇を閲歴せざるが爲めに此の如き語を吐くならん同年の朋友は皆學校に入りて餘念なく勉强し居るに已れ一人父母の許可なきが爲めに學校に入ることを能はずして方向を誤るが如きことある時は大恩ある父母をも怨むは實に免れ難きこととなり火の如き熱愛を寄せて氷の如き冷遇に逢ふ時は怨みざらんと欲するも能はざるなり財產なく智識なきが爲めに何の罪もなきに虐待凌辱せらるゝ時は怨恨の極何とか復讎せんと企つるは誠に免れ難き人情なり余は怨恨の惡しきを明知し居れども未だ曾て怨恨すべき境遇を閲歴せざる人が已れを以て光明正大の君子と爲し他を以て邪惡鄙陋の小人と爲すが如きに服することを能はざるなりと哲學者艴然として曰く汝の言ふ所、予は解することを能はず解することを能はずと。

俊敏才子あり吾人に謂つて曰く予は汝を遲鈍なりと思ふが故に汝の爲す所は悉く遲鈍に見ゆ汝を無識なりと思ふが故に汝が言ふ所は一も取るべきもののなきが如く見ゆ汝を迂濶なりと思ふが故に汝の購求したる物品は凡て粗品にして高價なるが如く見ゆと吾人は一日此俊敏才子と男女交際に就て論ず彼れ曰く男女交際は一二世紀延期するが宜からんと吾人曰く今日の男女交際は男子多くして女子少きが故に女子を珍らしがる風あつて宜しからず交際社會に男女の數が大抵相均しきに至らば極めて淡泊淸快なる交際を爲し得るならんと俊敏才子は滿面に冷笑を催し此迂濶者めと言はぬばかりの態度にて曰く男女交際の弊害あると否とは男女の精神に在るのみ何ぞ人數の多少に關せんやと。

今日の學者なり宗教家なり大抵右に述ぶる如き者にて其鋭氣欝勃たるは自己が閲歷經驗なき證據なり恰も富家の子弟が貧人に向つて汝等は怠惰なるが故に此の如く貧なりと言ふに似たり自己に多くの弱點あることを認め得べき境遇を閲せずして自ら完全無缺なる人物の如く思ひ傲然として他の經驗家を凌蔑するが如きは無責任鐵面皮の至りと謂はざるべからず。

吾人不肖と雖も質直男子を以て自ら許せる者なり豈に柔媚なる顏色を以て軟弱なる態度を以て婦人の歡心を得んとする如き輕薄子を學ばんや豈に甘言を以て戯談を以て無識無氣力なる婦人を籠絡せんと務むる如き無腸男子を學ばんや豈に高帽美服を以て金時器金指環を以て卑屈女子を瞞着せんと務むる如き俗骨漢を學ばんや吾人は實に滿腔の熱血を以て活動女子

凜烈女子質實女子を造り出さんことを希望する者なり世間動すれば吾人が熱情文字を見て吾人を以て文弱男子と認むる者あり然れども戀情論者必ずしも文弱男子にあらざるあり吾人が文字の纏綿悱惻なる中に剛剄質直の氣を含める處を認むる人は吾人の眞面目を知らん人情學の蘊奥を究めずして吾人を議する者は吾人の知己にあらざるなり。

批評

○英國清教徒記事

雲の舍主人

往昔モーセのイスラエル人を導きてシユルの曠野に至るや水苦くして呑むべからず此に於てエホバ一本の木を與ふモーセ之を取て投入せしかば水忽ち清なれりと、是舊約書に現はるゝ一節にして余は今其事實の如何を問はんと欲するものに非ず只是を以て上帝が時々濁世を清め邪惡を掃ふの一譬喩と信ずるを以て足れりとなす此故に嘗てエルサレムの人民が罪惡に感染し遂に亦救ふべからざるに至るや神はエルサレムを滅亡せしめて以て其罪惡を絕てり近く我國に例を取らんか數年以來基督教漸く社會の表に頭を擡ぐるや熱罵せしが如き佛教徒に一大刺激を與へ彼をして大に警戒謹愼あらしめたり彼等をして眞に改宗せしめざる間は未だ全く基督教の力の大なるを許すべからずと雖も彼等をして少しだも其腐敗を知つて之を去らしめ一時たりとも其眼を覺さしめたるは是基督教が及ぼせし勢力にして其腐敗汚濁を清掃するの目的の幾分を達せしものと云ふべし猶此に類するの例枚擧に遑あらず要之人類の薄弱なるが爲めに或は社會に腐敗を來し邪惡に流るゝ時に當つては上帝が暗々裡に之を清掃するが如し。

十六世紀の末年に當り歐洲各國の舊教漸く腐敗を來し教徒皆虛儀に流れ空式に陷りたり剩へ英國に於ては政教一途の弊を株守し彼の腐敗せる舊教を以て國教と爲さんと欲し遂には國教徒に非ざるものには教を講ずるを禁じ國教會堂外に於ては集會するをさへ許さゞりき此時に當り奮然蹶起し眞理に依て立ち清高の教を奉じて動かざりしものは即ち彼清教徒にてありき只夫眞理に依て動かざりしが故に彼等は如何なる國難も迫害も恐とせざりしなり幾多の清教徒或は鐵窓々下の鬼となり或は刑場の露と消えしも消滅し得べからざるものは實に眞理なり眞理の力らは遂いに歐洲全土を風靡し或ひは舊教徒を戒心せしめ警醒せしめ或ひは清教徒を增加するにいたれり豈只ゞこれのみならんや之れを內にしては千難萬艱を排して

遂に立憲制度の基を開き之を外にしては遙々萬里の風波を冒して共和國を建設せり清教徒の功業亦偉大なりと云ふべし然り余は其功業の偉大なるを信ずると共に亦彼等は世の腐敗を掃蕩せん爲め上帝の下したる一本の木の如きものなりと思ふ彼等の擧動皆摸擬するに足らずと云ふと雖も實に社會に必要有益なる一分子と云はざる可からず。

今や彼の大功業を建たる清教徒の記事あるもの一冊子となりて世に現はれたり余は希望す世の基督教徒が博く此書を愛讀し清教徒の精神に則り眞誠の基督教とならん事を、徒に空儀虚式を墨守して一致、組合兩教會の合併をも成就する能はざる今日の信徒は決して舊教の腐敗を見て之を指笑する能はざるなり願くは此書につき大に顧る所ありて笑を後世に招く勿れ。

本書の文章間々譯文脉あり亦綿々連續する長文ありて亂糸を操るが如き感なきにしも非れど是決して意義を酌むに差支ある程にもあらず概評すれば先づ圓滑流暢なりと云ふべし新世界移住の一章の如きは殊に面白きが如し余は本書を世に有益なるものと認むるが故に世人が之を一讀せん事を希望するものなり。

○紅葉山人の「拈華微笑」

天牢 四民

色懺悔。戀の山賤。南無阿彌陀佛。拈華微笑。紅葉山人、は涙宗?、南彌陀宗?。色懺悔と南無阿彌陀佛は女本尊にして涙裲面の小説、戀の山賤と此拈華微笑は男本尊にして南無阿閦の小説。ソモ故ある?故ふき?吾人は無首の行にかこつけて、緘口結舌。佛語な標榜として拈華の男と微笑の女を寫し出し間々亦佛語な點綴して表面的裏面的共に其脉絡を通徹せしむ、例令ば＝(上)地藏肩柔和にして眼元情らしく云々＝(是れ微笑の女が顔の様子)、＝(下)其上に、途にて同僚の菜に行遇ひ、南無三と見ぬふりしても先方にも眼あり云々＝(是れ拈華の男が行ひの有様)又＝(上)衆聖人は濟度の沙汰に及ばず。食はず嫌ひだけは、いかにも慈悲を垂れて成佛さしたきものなり。＝及び＝(下)跛者でなし、啞者でなし、無垢清淨圓滿具足の美人。＝等の如し。山人の眼は實に精巧なる顯微鏡、初戀者――鹿ト返詞モツエ出來カネテ頗ニ紅葉ノアドケナサ――の心中は常に其標本となりて照らさるゝなり、(尤も處女にあらずして男子なれど)彼の「戀の山賤」之れが爲めにもてはやされ、「拈華微笑」も亦然らん、それこそ紅葉の雅號、初戀の解剖博士、白布を屍躰に敷て一滴の血液だも點せずと云ふ田口氏の技倆もなんのその、いづれ獨得!。試みに其一二を擧ぐれば、＝車には母衣のあるものを、かはつた物好と立留つて見返へれば、五六間ゆくと車の中より、燃立つ色の襦袢の袖口にからまる手をさしのべ、母衣をふわさかけて車は急ぎぬ。我は眞實我れに劣らず、我顔見むさてしよほ濡れたまふか。＝又、＝望むは、かの人に怪我もなく纔かに車倒れ、車にも損所なくして、車夫にも傷つかず、暫時氣絶するやうな事あらば、しめたり! 我かけ寄て介抱し、話しかけ、つゐ其わけをつけて退けむに、何の子細もなし。＝等細の又細、微の又微なるもの。殊に天王寺へ參て、拈華の男は忽ち愈疑の男となッて遂に望を失し、微笑の女は忽ち疑生の女となッて丸山某に嫁する此段妙云ふ可らず。爾慾に申さば丸山を圓山、ごくさるを「獃れ町人結局見ざるか、「ハアッ、＝南無三!(Marujama)＝獨逸文字ハ御用意精到、「ナソル〳〵。されご吾娑婆に於ける時藏の技は世人已に眛き、歌舞技座の大演劇こそ一般の渇望なりさ、如是我聞。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

雜録

○卿相諸公　もみじ

漢の高祖は布衣より起りて万機を握りたり、從ふ所ろの將相素と皆な匹夫にして、蕭何、韓信、陳平、周勃、の類大率ね下賤の地より登ぼりたり、後漢の光武は少き時長安に往きて學び、頗ぶる大義に通じて禮讓厚かりしかば、其の帝位に登るとき隨ふ所ろの將相多くは皆な君子學者の風あり、鄧禹、冠恂、馮異、李忠、賈復、竇融の輩ら大抵儒術を學びたり。左れば前漢に於て男女の風儀極めて亂れ、後漢に於て其徳の大ひに嚴肅なりしものは、上の制する所ろ嚴かなりしと閨房ありしとに由りて異なる。凡そ大臣貴顯に於て色を愼しまざれば天下に淸徳あるなし、而して卑賤より成上りたる英雄はとかく此の徳に於て欠くる所多きものあり、歎くべし。

○母親の美談　三笠の山

是れは實事譚ですから左樣御承知なさいしか〻大阪にてあつた事です。

小兒は革どうらん肩に懸け子守に伴れられつゝ實は子守を伴れつゝ幼稚園より歸り來ました小兒はニコ／＼ド。お母さん今日な珍白いとをならつたよ徳利と云ふものだよお父さんとお母さんも知らないだろう先生が云ふたよ徳利て酒や醬油を容れるものだよお母さん醬油は知つて居ますが酒とはどんなものだよ亦徳利とは」母親は眼をうるほしました、サモ道理なり抑此家は信仰厚き有名なる牧師の住宅です六歳になる此家子に今日迄酒と云ふ惡魔のあるとを知せなかつた酒屋の門を通らしめなかつた徳利だも家には置かなかつた酒を知の媒介となるからでせう然るに今日幼稚園で徳利の講釋就ては酒の……あゝ是れが涙の種です。

サスがは此母親小兒を抱きました懇ろに酒の有害なるとを話しました、そうして母親は「お前是れから酒は飲んでは惡いと人に御話しなさるか」小兒は元氣に溢れつゝ明かに「ハイ」と答へたそうです。

○夕ぐれの春　しのぶ

梅は咲きぬ、冷やかの天地に花笑ひ初めて心地また生きかへりぬ、鶯の聲、一つ二つの蝶、無味の世に多情を加ふ、實に春はたのしきもの哉、左れど春の朝たは更に快ちよく、其夕暮は徜ほ／＼さびしく哀し、白川少將花月百首の歌に、

そぎの葉の身にしむよりも春風の
花に聲なきゆふぐれの庭。

衣物につきたるペンキは石炭油でしめした布で拭ひ取るが宜しひです。

○小女の熱心

(上略)小生貴社女學雜誌講讀者の一人に候、毎度御高說と御熱心には實に感服仕候隨て利益を得る事又實に莫大に有之候此の洪大なる利益を蒙り居候て未だ一回も感謝申述候事無之此度御誌中上度候事は他の義に無之去ル廿五日發兌女學雜誌雜錄欄中に子供の美談の一節物語候て特に感じ入候に付翌日曜日に沼津教會にて日曜學校生徒に談話(閉會前に短話をするを例とす)致し候處一生徒非常に感激し主の前に祈禱致し候て衆生退散候後も尙ほ熱涙を揮て眞實なる祈禱を捧げ居候ひしが間もなく小生方へ進み來り涙ながらに(此の現狀は筆し難し御察しあれ)何卒愚父の烟草を飲むのを禁ずる樣に御話し下さいませ過日よりは御蔭で酒丈けは止めましたドウゾ尙ほ烟艸を捨つる樣に御談し下さいと其熱心なる事滿堂(日曜學校教師及引續き開くべき聖書會の人々)只だ茫として爲す處を失し候有樣に有之夫より該生徒を同伴致し直ちに其父に勸告致し候處本人も大に感じ斷然禁煙致し候旨の決心なる由に付妻君共四人にて神の前に感謝を捧げ候て夕に至り晩に說教も相濟み候て小生歸宅致し候處愚姪頻りに神の前に熱心祈禱致し居候處稍ありて膝下に來り父上事先刻禁煙の決心致し候と喜ばしげに語り出て候。ヲー我が愛する女學子足下よ何卒如斯有益文字を常に吾々に賜へ數行の辭に天に於ては最も大いなるものと成るべく候。

(駿州沼津町、西島甲一郎)

僕は到底ヨシ子さんは婚姻が出來ないよ、と悲し氣に言ふた。友人らしき人「何故か」と問ふに。どうもアレの家族の人が皆な不同意で僕を嫌ふやうだから、と一層沈んで言ふ。友人ナニそんなを構ふものか、家族の人と婚姻するではあるまいし、ヨシ子孃の愛をさへ得たらばい丶ジヤアないか、家族がぐづぐづ言はふとも放つて置玉へ。ダが然し(シクシクと泣き)ヨシ子も僕を嫌ふやうだから。

○東京十二大新聞

撫象子

時事新報　妙……老先生
報知新聞　熟……若先生
朝野新聞　氣……政論家
毎日新聞　意……裁判官
日々新聞　圓……流行紳士
東京新報　勘……官海俠骨
政　　論　豪……老壯士
東京公論　習……少書生
國民新聞　巧……多望青年
讀賣新聞　慧……常世才子
日　　本　鬱……漢學者
江湖新聞　學……理學士

白地の絹布はムクゲの葉の揉り汁か又は鷄糞にて洗へば石鹼よりも能く落ちます。

一四

○温故知新（ふるきをたづねてあたらしきをしる）

序（ちよ）　　　無識庵の隠居

新たなるもの必ずしも眞ならず故なるもの必ずしも僞ならず左の一篇は源氏物語帚木の巻雨夜の品定め中左馬の頭の話せる婦人優劣論の比喩なり隠居常に源氏物語を愛讀しておかず何ぞや今日の所謂一夜作りの小説とは大に其趣きを異にして人情の微妙を穿つや眞に迫り全篇金玉の章句に滿ち〳〵て恰も寶の山に入るの心地するが故なり眞に本邦文學の粹と云ふも不可なかるべし此篇は道徳上社會上の點より文外の解を爲せるものなり若し夫れ之が文粹と眞意を探らんには他に註解書あり博識なる國學者あり老生の到達する所に非るなり讀者宜しく原文に從ひ深奥の理を發見せば其益や大且廣なるべし。

思ひ見る内裡人少なく蓬々の風蕭々の雨宵に至るも晴れやらず四隣寂として物静かに燈火近く打ち集へ紫を評し紅を品するの快。

第一、本匠工の例。

「よろづのことによそへておぼせ」。萬事に比ひておぼせ　森羅万象皆な比較の材たり公平に思慮するの料たらざるなし比較は智識智推の手段なり判斷の初手なり智に偏するあり情に偏するあり洋癖家あり和癖家あり蓋し僻見を有するものに無私公平の觀念を保つ能はず心理學者は之を稱して一種の幻影と云ふ何ぞや自ら信ずるもの絶對の眞理ないとすればなり主觀的の偏見を客觀的の諸物に應用するもの安んぞ公平の見を有するを得んや凡て眞理は極端に存せざるなり

「木のみちのたくみの。よろづのものを心にまかせてつくりいだすも」。木匠工の諸物を意に任せて作出すも　之に比し彼に鑑て深夜物静かにして精神の沈まりたるとき即ち意識中に種々の觀念隠現出没せざるとき情慾の熱火の沈まりたるとき私利私慾の邪念を去りて能く熟考せば苟合、汚穢、好色、仇恨、爭闘、忿怒、媢疾兇殺、醉酒、放蕩等は速かに誅殺すべきものなるを自覺するに至るべし注意少きものは記臆少なきものは失態する事多し凡そ意に任せて大言放論し人を嘲着せんとするは野蠻の風習なるのみ

「りんじのもてあそび物の」臨時の翫物　空理虚談以て名を得利を獲るも一時の榮なるのみ不義の富貴は浮べる雲なり之れ世の翫弄物なるのみ

「そのものとあともさだまらぬは」初より其形の定まりなき器物は　外觀上時に空論虚談も博學多才らしく不義の富貴も豊かに見え高樓上山海の珍味も最上の歡樂なるが如しと雖も之れ皮相なり浮華なり妾を蓄へ妓樓に遊び家族なる人の善惡の岐を打破する祝すべき事に非るなり凡そ確固たる主義なき無賴の徒は生くるとも猶死するが如し

「そばづきざれば見たるも、げにかうもしつべかりけりと」何となく洒落ばみ打見るに興あり　深淵の魚と云ひ遠國の寶玉と云ひ實地其要なきも之れ等を欲するものなり婦人たると男子たるとを問はず衣類の粧飾容貌の美醜等にのみ戀々として眞實の其心意を顧みるものいと少なし又石碑の屹然たる建立を爲す空式虚禮の爲めに貴重の黄金を費し未だ貧者の門戸を訪ふもの少なし枯木の細工紅紫の衣類虚禮の粧飾屹然たる碑ふと見れば洒落ばみて打見るに興あらんが之れ習慣と華やかなるを好むの心より來るものなり然れど習慣必ずしも國粹に非ず唯た秩序と進歩の相關の理に從ふ可し

「時につけつゝ様を替て」時々の流行につけ種々の形に造りなし　無思慮なる壯士彼所に現はるれば僞士之れに擬して現はれ洋風貴しと傳ふれば悉く洋風を取らんとし洋行と云へば猫子も杓子も洋行を唱へ大金を海外に投ずるものあり朝に生れて夕に死する雜誌熱一夜作りの小説熱會社熱鐵道熱只其利を見て道を蹈まず政治家も時に流行の熱に浮かされ米に佛に獨に英に以て自國の事情を斟酌せずして直ちに摸せんとするものあり雷同又雷同流行又流行

「今めかしきにめうつりて、をかしきもあり」今風にいと面白く見らるゝもあり一度は感ぜらるれど　一時蜉蝣の命なるのみ不朽に傳へ利潤を國家の爲めに計るものは史上に微し哲理に訴ふべきのみ

大事として、まことにうるはしき人のてうどのかざりとする「さて大事

として故實ある貴人の調度の飾りとするものなどを暗黒の界にあり天よりの光りを受けず心得からず眞理に叶はず惡意ありて心觸の不良なるものは新らたに生れずんばあるべからず概して娼妓家に入れは破産し概して妓樓に放蕩遊樂するものは不忠なり不孝なり「さだまれるやうある物共を、なんなくしいづることなん、なをまことのものゝしじやうずいさまことに見えわかれ侍る」倘其の名匠は樣別に見わかる大人たり豪傑たり貞女たり淑女たり善男たり善女たるもの蓋し少なし器にして名匠を得ざれば良器たる能はず後見する婦人の心にして邪惡なれば夫の心事又邪惡となる子にして良母を得ざれば生涯を誤るに至る之と同じく良教育家を得ざれば青年子弟道を誤り良政治家を得ざれば國家の幸運に遇ざかるや知るべし

○塩の功能

社の子僧

人間の躰は塩の供給を一日でも欠く事が出來ません何故なれば汗や涙のように躰から分泌する液汁にふくまれて出る事が多い故また塩分を含む食物によりてこれを補はねばなりません、肉類は野菜類に比して塩分を含む事が多く、野菜の中でも蕪の如きものは少しも塩分を含んで居りませんその上にすべて種子の處は野菜の他の部分に比べて塩分が少くないやうです、又これを培養する地質と氣候によりて大に變化することがあります例へば海濱に於ける野菜は塩分多く內地に生ずるものはポッタースが多量です何人と雖も塩を必要しない人はありません塩の甘ひ食物を取る人も矢張りそのものを多量に食して必要だけの塩分を取り、塩のからひものを好む人はさのみ多量の食物を取らずに居ります、佃煮を皿に一盃喰べる人はありませんが甘いものゝ方は隨分多く喰る人があります、フランス人は一年間に塩を用ゆる量が十九パウンドで英人は二十二パウンドです、塩分を用ゆる多量なるも害があり僅少いのも悪いようです塩分を用ゆることが少ないため死んだ人はたくさんあります、往時ホルランドの刑罰に罪人へ塩を與へぬと云ふ法がありましたがこれは罰則の内でも極く嚴しひ一つだと申します塩を與へずに置く時は胃の中に蟲が生ひてその蟲のために胃を喰ひ盡されて死ぬと申します、多量に用ゆれば吐氣を催し敗血病を發します、牛肉の如きは塩分を含む事澱粉質よりは少なく鳥の肉などもそうです動物の塩分は血液中に多量ですから肉の方には塩分はごく少ないのです、そうして人身の發達健康に塩は決して缺くべからざるものでまたよくその量を考へて用ゆべきです。

牧師眞面目に新夫婦の手を握らせ乍ら、
汝等眞に愛せよ。夫よ汝ちは能く妻を保護し之が爲に死を致へよ、妻よ汝ちは能く夫に從へ何事にも夫の後に伴ひ行けよ
細君は二十五貫六百目あると云ふ大きな躰をゆりゝと動かし、頭をあげ、先生、その役を取かへることは出來ますまいか、夫は郵便くばりで、足が早う御座います、

○教育と健康　Y. I.

米人某嘗て云へる事あり曰く近來女子教育漸く盛なるに從ひ學校の課程愈增加するが如し此故に女生は學課を修むるに全力を盡し家事の如きは習練するに遑あし然るに男子は幼にして商業若くは農事を營ましめ其働の餘暇を以て勉學に充るもの多し然れば家を成すに當り女子の智識は其夫に優るもの少なからずされど此智識の發育と共に肉躰の薄弱を來せり是偏に腦力を費すの過度なると運動の不足と及び家事を治むるの識なきに歸因くものなり、昔新英國にて於て生長せし女子は快活強壯にして大に家政に精しかりしといふ其爲せし所の一斑を擧ぐれば洗濯食物等の事を司るは勿論自ら馬に鞍を按けて之に乘れり其他織物裝飾、繪畵讀書等に至る迄通曉せざる所なかりし然るに彼の活潑なる氣力は日に月に衰弱し今日の女子は只書物を讀む事にのみ長じて身躰は弱く日常必要の家事には甚だ暗し是實に危險なる傾向にして之より生ずるの弊は甚だ多し今日に於て匡正するなくんば女子は單に智育にのみ偏し所謂跛教育に陷るに至らん是實に米國の爲めに注意すべき一大事なり何となれば一國は家より成るが故に家の幸不幸快不快は即ち國家に影響を及ぼす可ければなり而して一家の幸福快樂は女子の家政を取るの如何に存するあり然るに今日の女子は此要點に於て未開時代の婦人にだも及ばざるが如し云々と是は是れ米人が米國の爲めに憂ふるの言なり然れど余は此言を以て他國の事と看過すべからずと思ふ蓋し近來我國に於ても女子教育大に盛あるに從つて徒らに書に耽り躰を損じ家政を知らざるが如き女生徒甚だ多し日本現時の女生たる者亦女子教育家たる者須く此處に注意すべきなり。

植物學者　お姫樣御覽なさい、之が煙草の苗で御座い升。
姫御前　そうかへ、何日ごろシガレットが生るか子ー。

○膽太の忘れもの

此所は獨逸の南の方に、田舍には類少き市ありける、市街を隔つること二町餘り小高き丘ありけり樹立まばらに生茂りて、所々老女の向歯にさも似たり、さればとて土の色見ぬ迄生延たる芝には、ところ〳〵に小草のいと愛らしふ花咲たるもあはれあり、かゝる所へ二人の年若ある男來りける、一人はさも自慢氣に生ける口髯をわれ障にてもするが如く、氣にしてひねりつゝ歩み、また一人は左手に杖を携たるが、右手にはハワナの卷莨を指の間にはさみ、時々之をふかしてぞ來ける、何の話の興に入しにやさも可笑に笑ひ居たり、此所の芝生へ近くと

そがまゝ、二人の男共に足なげ出して、高き邊より眞向に下を見下し、樹陰に見る桃園伯の邸第、鋭く嚴しく立る會堂、雲雀立つ野邊の景色、清水流るゝ小川の彩色に餘念もなかりける。

黒 オイ白君僕が未だ農學校に居た時分、骨を折つて培養して出來た南瓜を、君に見せたカッタヨ、實に彼の位の南瓜は何所の農業共進會へも出たことは無かろふ、

白 ヘー何の位の大さダッタエ、

黒 ソウサ、マー彼所の會堂、アレハ五千人入ると云ふが、アノ位アッタロウ、

白 ハーさうかナ

といたく愕きたるおもゝちもせざりし、

白 大きい物の話で僕も思い出したヨ、

黒 何か大きい物の話を聞いたことがあるかイ、

白 話どころではない僕の實驗したのだもの、

黒 實驗なら聞こうなんだイ、

白 君の知て居る通り僕がエッセンのクルップ製鉄場に居た時分のことダッタ、實に大な錨の修繕をするのを助手ッたけ、

黒 その錨は何の位の大さがあつたエ、

白 先づ近く例を取つたら彼所の五町四面ある桃園伯の邸第位もあつたろふ、

黒 オイ〳〵弄戯じやない、好加減に食言もついてもらいたいぜ、そんな大きな錨を何に使ふのだつて、

白 それ歟、それは、ホラ、さつき君の云ふた南瓜を煮る爲に使ふのサ、

これにて黒大いに痛められけるが此の負をばとつ返へさんとのこゝろにや、

黒 イヤニ僕を降參させる積ダナ、君はそれで僕がへこむと思ふからそも〳〵間違サ、先づ人は膽の大なるを要すサ、大人の生根を聞いて後學の爲にするサ、先づ一寸との位のもの歟、

ノアの方舟浮べし水を飲盡し未だ渇の止ぬわがのど、

堂だ、此でも君は云ふことがあるかナ、

白 燕雀何んぞ鴻鵬の志を知らん、善哉々々汝未だ道を得ず、そんな了見で、膽の大なるを要すなどゝは、片腹痛し眞大人の心と云ふは、こうもあろふ歟、

天地を造り給ひし大神の御手の廣さぞわが心なり、

と云ひしとあん實に膽太のしれものどもとはかゝる者をや云ふやらむ。

○小供の衣服及び眠り　　愛兒生

小兒には何時も暖かに衣服を着せねばありませんが亦汗をかく程着せると害があります其足と頸と手は常に冷えない樣に注意しなければなりません夫れ故小兒の衣服は襟を長くし亦袖を長くしなければいけません。

小兒を眠らせるには成る丈け母親と一所でないのがイーです而し非常に寒い時には一所にねかす方がイーです何故なれば暖かな時に一所に寢かすと小兒の消化機が働き過るので食物を餘計ほしがります大抵小兒には一夜に二度位食物をさせれば充分です小兒には成るたけ輕くつて軟かな夜具を着せて母親と少し離れて寢かすのが極イーです而して皆さん御存じの如く寒くない樣にしなければなりません。

○寒暖と食物との事　　右示子

木や石のようなものも晝間と夜間と其溫度が違て居りますが人の躰ももし血液の循環がなく從てそれより起る熱がない時は矢張り晝夜によりて溫度がかはりましよう、躰溫が減ずれば減ずる丈け外氣の寒暖を受けることが強くなります、晝間は萬有悉く溫氣を受け夜間は萬有悉く冷え渡りてそれがために平均を保ち得るのです、そして食物を私共が取ります時もよく氣候を考へて取りませんと大層な害が起つてまゐります何處の國へ參りましても大抵食事は三度と致して居りますがこれは習慣でもございましようがまた寒暖と申す事に關係を有して居ります朝溫度の充分に高からざる時に一回晝溫度の十分になりし時一回と申すように自然と氣候に從て食事の時を分つようになつたのです、野蠻人は一時に多量の食物を喰べて度々食事をいたしません開明の人は身躰が虛弱ですから溫度に注意して食事をいたすのです、朝の食事は晝迄の用意に食するので晝の食物は夜間のために取る事と思はれます。

父　コレ、子供はソンナニ一々食べ物をかいで見る者ジヤない、さうが小さい時なぞは何でも喜こんで食べたものジヤ。

子　ソリヤー、お父さんの小さい時には、お祖父さんが金もちで、甘い者を食べさせたのだもの。

○ウイリアム、ウオルヅウオルス傳（二）　　さ、ら、

此後氏は尙ほ自由主義を執る晩年氏の政論一變す曰く政府は宜しく強固なるべし改革は宜しく經驗の指命に從ひ緩やかに爲すべしと要するに氏は保守漸進の主義に變ぜり此變化に對しては世の酷評を受く後年氏が文學上非常の敵意冷遇を受けしも幾分か是に源因す孰れの世にも政黨派心の嫉他主義の者は其人物思想學問まで誣ゆるに至るとは嘆くべきの至りなり氏は反對に答へて言へることあり。

余の政治主義にして變化なかりせば余は世に在りて左までの用をなさゞりしならん余は少壯の時は熱心を欠き長じては思考の力なき一小人となり了りしならん

さ然り氏はマダム、ローランドが斷頭臺上に「オゝ自由よ如何に多くの罪惡は汝の名を假りて犯さるゝよ」[O Liberty! What Crimes are committed in thy name!]と叫びし如く自由の濫用せらるゝが爲に氏の最も嫉忌せる專制王權の再び跋扈跳梁するを見て衷情中に熱し昨非を改め過激の改革を排斥せしにて決して彼の古格故式を崇拜する保守主義とは固より日を同して語る可らざるなり。

一千七百九十三年氏の初作 The Evening Walk（黄昏の逍遙）及び Descriptive Sketches（叙景詩）世に出づ此二作の後者は佛國革命の實情を摸寫せしものなり深く世人の注意を惹かざりしかども コルリッヂは之を見て作者ハ希世の詩家なりと賛嘆せりと云ふ。是れより一二年氏ハ愛妹ドロシーを携へ各地を遊歷す此の時より氏ハ詩人たるものハ宜しく閑日月を得て詩想を養ふ可きものなりと信ぜり、固より豐かなる家柄にもあらざれバ一ハ生計を得んため「ゼ、フィランスロピスト」と云ふ平民主義の月刊雜誌を興せしが失敗す 幾ばくならずノルフォール侯の家族の子にカルベットなる者あり非病牀に看護を受けし深切に感じ終焉に臨み九百磅をウォルヅウォルスに遺せり氏ハ是に妹ドロシーが他より遺産として受取し金百磅「リーカル、バラッド」の收得二百磅を合せて之を預け其利に衣食し愛妹と共に唯天然の美を歌詠して餘念なかりけるが。かくて八年の後ランスデール伯薨じ嗣子家を繼ぐ先人がウォルヅウォルスの家嚴に負へる幾を忘れず八千五百磅を返却す此を五子に配分し氏と妹ハ各一千八百磅を得たり固より財を望まざるウォルヅウォルス兄妹にありてハ此金ハ以て後半の餘生を送るに充分なりしなり。

一千七百九十五年居をレースダウンに移す玆に大詩人コルレッヂと相知る二氏の交情日に密なり三年の後氏はコルレッヂの住所たりしトウエーに轉ず、新居ハ海に臨み山を負ひ風色絕佳なり玆に詩藻界の双仙ハ日に往來推敲す遂に有名なるリーカルバラッド（謠歌）は二氏合作として世に公にせられたり當代の詩風は唯古字古語を弄するを事とし自然の美、人情の細、日常の事は恰も支那文學に於て散文の四六調に於ける如し其世教に益なき知るべきなり、更に旬に上らず氏の此書は大に此風を警醒改良せんと欲せしなり則無生の万有に心意を附し日常の細事を材料として人間至高の德心を滋養し一たび之を誦する者の心緒を高尙ならしめんとせりされぱいかで文界の俗物の卑下なる嗜好に適せん此詩卷の出づる激烈なる攻擊四面八方に起る見ぬ者さへ取つて讀の價直なしとまで思はしめたり氏は此攻擊には更に頓着せず愛妹及びコルレッヂと日耳曼に遊歷すハンブルグにて相分れコルレッヂハラッツフェルゲにウォルヅウォルスと妹はハノーバーのハルッに赴くハルッは森林山谷の一部會なり滯留中名作多し殊に氏の大著の一なる「プリルード」は此時より稿を起せしなり「プリルード」は氏自身の心性の生長一身の經歷より羈旅大望、目的、失望、困難、の情緒を細寫せし大篇なり。

ウォルヅウォルスの初作の世に遇はざりしとは左の一事實を以て證すべし僅々五百部を印刷せし「リーカル、バラッド」さへ賣り捌けず出版人の破產するや同書の版權は評價帳に上らず出版人は餘りのとに思ひ依賴に請ひて之を取り戾し以て著者に呈せりと云ふ、夜作の俗小說さへ忽ち二版三版を打ツ今の世の中とても當世の文人は果報者なる哉。（未完）

小說

○イナック、アーデンものがたり　テニソン著　某女譯

こふしてゐる中に世間でハくだらぬ噂をする物が有て、こふだろうと目算をつけて置た事の知れた處から、自分たちの權を侵されでもした樣に氣をいらち出し升た、あるひハフィリップが本氣でなく、たゞ女にからかつてゐるのだといひ、又ハ女の方で思はせ振にのび〲にして置くのだといひました、又そうでもなく、フィリップもエニイも自分の心さへ知らぬ痴者だとわらう者も有升たが、中にも別けて邪推が蛇の玉子の樣に心に蟠つてる腹黑い奴が冷笑しながら兩人のとに付てまだ〲聞苦敷とを云ふらし升た、エニイの息子は顏にこそ望む處を顯わせ口へ出ては何にも云ませんかつたが、娘の方は「どふぞあの好い方に嫁入て家の困難を救つて」と始終母に迫り升た、フィリップの普段壯健そうな顏さへ近頃ハ物思はしさと、憔とで窶で來升たが、こふいふ事を耳聞するエニイは見聞くと皆自分を咎める樣に心苦しく思升た。

ある夜エニイがどふしても寐られぬことが有升たが其時、夫イナックの生死に付て何卒確とした徴候を玉われと祈願致升た、折ふし暗やみのすごみ、恐ろ敷頻りに胸さわぎがし升て、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

終にこちへ切れず、はね起て燈をつけ、イキナリ聖書を取上て、徴候が見付度とおもふて當途なしに開て、フト指を置た處に「棕梠の木の下」といふ句が有升た、併しこれらは何の意味もない、サッパリ分りませんから、書物を閉て寐り升と夢にイナックが小高見の棕梠の木の下に坐つてゐて、上には大陽のある處を見て、なるほどイナックはモウ此世の人ではない、安樂な境界へ行て、いと高き神を讃美してゐるのだ、彼方に見えるのが義の大陽で、棕梠は天の民が「いと高き神は讃美す可かな」と呼んで道に敷く枝であろうと思つてる中に眼がさめ升た、そこで直ぐ心を決し、フィリップを呼にやり升た、そうしてイキナリ、フィリップさん、わたしはあなたへ嫁入らない譯もなくなり升たと云升た「そうおまへさんの心がきまれば兩方の仕合といふもの、神さまのお心にも叶ませう、そんなら直と婚禮するとしませふとフィリップが云升た。

そこで兩人はめで度婚禮をし升た、併しエニィの心はどふも平穩で有りませんかつた、あるけば何處から來るともなく、側で足音がする樣であつたり、又どふやら耳について何か物いふひとがある樣な心持がしたりして獨りで家に殘されるのや、獨り歩きするのが嫌になり升た、そうして部屋へ這ろうとしてトッテに手を懸ながら、物おぢしては暫くたゆたふとのあるのは何の譯だろうと訝り升と、フィリップがその譯はわしが知つてゐる、懷姙してゐる者にはまゝそういふ心持のするとのあるものと云升たが、さて今度の赤子を生落すと共に、氣分も新たになり、子を愛する母の情も一層精やかになれば、フィリップとも充分打とけ、いとゞいとしさが增す中に奇妙な想像も全く消行きました。

さてイナックはどこに居つたのかといふに、先乘組んだ好運丸はビスケ灣で恐ろ敷東風に出逢ひ、殆ど壓倒される處を漸く凌で、熱帶を越へ、見崎邊で揉みにもまれ、兎角出來不出來の天氣を侵して再び熱帶の海を切ぬけ、やがて追風の來るのを天の助と見事な島々を安らかにくゞりぬけ、とう／＼東洋の港に錨を下し升た。

そこでイナックはひと商買し升て、當時の市に向そうな奇妙な代物や、子供たちの土產に金箔の龍などまで買込升た、然るに好運丸の歸り道には好運なく、始のほどこそ風浪の平穩な海に震るとさへあるかなしで、船首に着た彫刻象はさゞ浪靜かな船路を遙かに眺める事が幾日も續升た、併し其後なぎからあらひと遷り變り升て、長い間凌ぎおほせたあげくに大

嵐と成て、殊に暗の夜とはいひ吹廻す颶風の最中、ソレ暗礁といふ間もなく、船は一打に碎かれ、乘組の者はイナックと外二人を除けて、悉く沈沒し升た、夜半から船具や小桁のこわれを便に漸く浮んでゐた三人は朝になつて或る小島に流れ着升たが、此島は豊饒でこそあれ、寂寞な大洋中の最も寂寞な島でした、併し人生を繫ぐ爲のみには不足はありませんかつた、軟かな菓物、大胡桃、滋養ある根などは充分にあり、哀といふ事を除ては殆んど生活に不自由はない位でした、そこで此三人は海に臨んだ方の峽路に寄懸て、小屋を建て、棕梠の葉で屋根を葺き升たが出來たものは半分小屋、半分天然の洞穴でした、こゝに三人はいとも豊饒な樂園に置れて永遠の夏と共に日を送りながらも、心には甚だ不滿を感して居り升た。

寄書

○新島君の逝去、婦人白標俱樂部の好意　大和郡之助

近頃余をして奮勵せしめたるもの二ツあり一を新島君の逝去とし一を婦人白標俱樂部の好意とす。

一、新嶋君の逝去

あゝ精神的教育の先導者平民的の唱導者青年の保護者平和的の注入者として最も忠義なりし新嶋襄君は逝けり。

實に明治八年にてありき君は漸く京都に於て同志社英學校なるものを創立せり此時や是れ日本が基督教排斥の時代京坂神に於てすら基督信徒と名く可きもの殆んど無きの時代にてありき而のみならず諸氏も知るならん京都は偶像教諸宗本山の地たるを亦多くの京都人民は偶像によりて直接間接に今日迄衣食し來りつゝあることを（他に陶器織物等の名産ありとはいへ）然るに君が此地に於て基督教を標榜せる學校を創立せんとは如何に山水明媚とはいへ如何に勉學の好適地とはいへ誰れか非難せざらんや聞く當時本邦在留外國人は皆謂へり比叡の山或は琵琶湖に投ずるを得べし而れども京都に於て基督教主義の學校を創立するとは決して得べきに非ず決して永續すべきに非ずと其創立の際を見よ幾人の教師ありしぞ云はく新嶋君云はくデビス氏（當時同志社教師）のみ生徒は何人ぞ云はく本間重慶氏（當時天滿教會牧師）外二人のみあゝ天下廣しと雖學校多しと雖此の如き學校果して幾許かある而るに何ぞ知ん君が熱心と確誠と忍耐は今日の同志社あらんとは。

君が第二の洋行をなす時に當り大阪の有志者は君を招待せり人は皆期したり君は席上必ず有益なる演說をなすならんと而り君は演說をなせり淚を以て――左の數言を述べたり。

余は今や聊か觀察をなさんが爲め歐米に航せざる可からず余は老たる兩親あり暫く後ろにせざる可からず余の悲む所是にあり諸君乞ふ之れが爲めに祈れ。

あゝ君が青年の爲めに我日本の爲めに流したるの熱淚は實に其骨肉を愛するの餘情にてありしなり西哲云はく愛は骨肉より始まると新嶋君善く之をなせり。

實に明治廿二年六月中旬にてありき君は同志社禮拜堂に於て演說中偶に左の言ありたるを記ゆ。

彼の楠正成は死する時七度び復活せんと余は初め是れを惡漢の言とせり而れども正成以來事業は異なるも意志上に於て正成の復活せしものあるを認む。

余の多病なる何時永眠するやも測る可からず而れども願はくは有爲なる青年達よ此病人が計畫せし事業にして幸に取る可きあらば乞ふ之をして發達せしめよ

あゝ悲哉是れ君が同志社生徒に對する最終の希望にてありしならんとは亦青年に向て豫め遺業を委囑せしものたりしならんとは願はくは先覺諸士よ君が紀念碑たる同志社大學をして東洋橋上の燈臺たらしめよ君遙かに微笑せん余不肖理想の事業は異なるも亦小新嶋を以て自から任ぜん。

二、婦人白標俱樂部の好意

嘗て聞く英國女皇陛下すら貧民救助場に至るの時は卑服を纏はるゝと而るに我國の婦人を見よ此の如きもの果して幾人かある彼等は多く貴族的なり彼等は多く無學なり彼等は多く名畫の如く奥樣然たり無爲の器物たるのみ近頃基督教婦人が種々の運動をなすも多くは男人の手を煩はせり基督教婦人も亦厄介物なり唯今日の青年婦人が妻君たる事始めて獨立の運動をなすを得べしとは是れ吾人今日迄の妄想にてありき何ぞ知らん明治廿二年一月廿五日基督教青年親睦會に於て婦人白標俱樂部員が辨當を出すに當り自から炊ぎ自から料理せられ吾人青年を懇ろに厚待せられんとは吾人の如き無法なる斷腸男子も喜び且感淚を催したりき願はくは全國の婦人達よ能ふならば皆此の如くなれ吾人を奮起せしむるものは實に汝が一笑一泣の力によるなり。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

開書

文論

●すみれ女史　細かに御情實を何はねば明らさまにはお答へ致しがたしと云へど左樣の時は総てに試みの時と申し實に大切の時に候、君もし教を信じ玉ふならばよく〳〵祈りて后に決し玉へ、若し教に入り玉はぬならば古への賢女傳（婦女鑑の如きもの）又は私供が論じました「日本の家族」を御覧の上決し玉へ、些細な義理に拘はり一生を大不快にし亦た引きゝ人の一生をも不快にします。

●多くの方々　書籍の事にてはお問合の人多し一々お答へ致したけれど何分餘り淺さしたる條件づきにて甚はだ撰擇に困ります、尚ほ大方これと思ふのは追々とお答をし升。

●大坂女教師　女生徒は一層運動が大切です、然るを天然の遊戯の情を制し強いてチトナシクさせ段々に躰を弱らするは極めて悪るい事です、男兒はいくら騒いでも成人してから紳士になります、女兒と云へども自由に遊ばせなさるが宜しひ場所に從れば自ら愼みてよく佳人となります、凡る天然のはげましは決して人爲にて制すまじきものです。

歌舞音樂略史　小中村博士著上中下三册、定價七十錢

右發刊を弊社へ委賴されましたからお取次を致升。

●水戸一書生　廢娼論に付ての種々のお問ひ、成程左樣に綿密の統計表も入樣ですが、然し其根本はまも道德論に關するので、私供の意見は特に此三四號前よりの當雜誌に載てあり升。

●乙女さま　鼻を高く見せる工夫、出齒を低くする法、ともに存じません、尤も眉の剃り方で目を深く見せると自然に鼻が高く見へる相で、出齒は昏を閉ろくせをつけるより致方がありません。

●試驗女室諸君　豆腐とドヂウを入れて段々に煮れば、湯が熱くなるにつれドヂウが豆腐の中へ入る由、實否何如んとのお問ひ之は御室にて試驗遊ばすが第一で、私供の致したのでは決して左樣には參りませんでした。

答を募る

甲　女學生初めて家を持ちての經驗
乙　ホームを美くするに付ての經驗

右甲乙の答文を募る、各を上中下の三等に分ち、上には女學雜誌二ヶ月分、中には同じく一ヶ月分、下には猫に鼠二冊を呈します、〆切は二月末迄ですから成るべく早く多くお答を請ひ升す。

時事

○二月十一日

大地一周し、早くも憲法發布后一年となりぬ、維新草雜の際み　皇帝が四民に盟はせ玉へる御事三千九百万人民が朝な夕なに仰望したる吉運は、既に今年に於て開現するとなり指を屈すれば最早や八九ヶ月の後にある也、端なく其時に近づけば何となく恥かしき樣にうれしき樣に心をどりて只管ら感泣するのみ、詩人吟じて云へらく、

聖主不レ忘ニ初政美一。小儒惟有ニ涕縱橫一。

○又二月十一日

二月十一日を懷ふと共に念ふものは森君の死なり、吾人は森君を其非藩閥的の公平なるより、其の擬々斷々たるの武勇ありしより、其の一意決行の熱心家なるより追慕するに非ず、只だ其の新日本に於ける廢妾論、一夫一婦論の主唱者たるを以ての故なり、君逝きてより正に一周年、廢娼論俄然如此く起りて而も遂に君をして見せしむること能はず、空しく恨弔す、

かたみこそ今はわだなれ是なくば
忘るゝとのあらまし者を

〇名譽

名譽を好むものは、彼の色に耽るもの黄金を貪ぼるもの無行爲碌々として空死するものに優る高一等ありと云へども、未だ以て士の理想とすべき良德にあらず、士宜しく堂々濶歩して正路大道を進むべし名譽は自づから之に伴わん、名譽をして吾に伴隨せしむるは可也、之を追求するに至つては恥辱之に過ぐるものなし、人間當に追求すべき高潔至善の德他に極めて多きにあらずや。　吾人今の候補競爭者たるものを見て頗ぶる不審に堪へず。

〇議員候補競爭者

昔し孔明は風に嘯ふきて休臥したり、玄德民の疾苦を說いて之に勸むるに至り、道念湧沸して禁ぜず遂に起てり、古來幾多の義人が世に動くもの何んぞ初めより自ら賣るとを爲さんや、但われを求めて止まず故に靜野草花に謝して遂に憂艱の地に入るのみ、初志すでに打死を決す何の餘念ありて人のわれを賞むると否とを顧みん。　吾人今の候補競爭者たるものを見て頗ぶるあやしむ。

〇君子は蘭の如し

君子は蘭の如し、幽谷にあるも遠く薰す、聖人は春風の如し人皆な其來る所に迎ふ、士の先務は修德にあり自から善ならずして虛名囂々たるも吾に於て夫れ何んかある、われ敎祖祖師等の到る所ろに宣言傳道したるを見る、未だ彼等が名の高からんと新聞に出んと廣告に載らんとを求めたるを聞かず、彼の堂々として主義を傳道するは可なり、之によりて自ら益せんとするは汚の尤も汚あるものにあらずや。　吾人今の候補競爭者たるものを見て頗ぶる悲しむ。

〇國家天下の師

孔子四方に說く所ろ道のみ、孟子諸侯に勸むる所ろ仁義のみ、時人之を迂なりとして而して今より之を顧みるに遂に仁義の何の時何の國何の人に對するも必らず必勝者たるとを認む、彼の小智機才に誇りて自ら慧としとするものは量細短見の士のみ、天を知り道を重んずるものゝ競ふべき所ろにあらず、目下有志者はいよ〳〵政熱に浮れんとし、新聞紙は政論に醉はんとし、彼の佛敎徒に至る迄で尙ほ修德傳道の義務を忘却せんとす、情勢此如し、苟くも天下の師を以て任ぜんとするものは亭然嚴守益々刻苦勉精する所なかる可らず。

〇僧侶の鑑

時事新報に左の美談を載せたり、

福嶋縣安積郡郡山町なる眞言宗新義派如寶寺住職權大講義鈴木信教氏（天保十四年生）と云へるは慈善の心最と深く貧民の中に間々其子の養育に苦しむのあまり墮胎を計り剰へ生兒を殺すものあるを憂へ自ら財を投じて人の子を養育したること百七十餘人の多きに達し其が爲め費したる金已に六千九百餘圓に及べりと云ふ元より僧侶の身とて貯ふる蓄財あるに非ず只非常の節儉を以て檀徒の寄附及び寺の收入等より支辨することなれども夫にても尚ほ足らざれば自ら粗衣粗食して厭はざるのみか日々の食事を減じて二食となす事前後十有餘年殆ど一日の如し其育兒の法は先づ最初其生母に養育を托して年々若干の養育料を贈り稍や長じて四歳位に至れば寺に引取りて自ら養育し現に在寺の小兒は十餘人なりと云ふ明治五年高辻侍從が同地方巡回の折同寺に至り始終の話を聞きて甚ろに感涙を催し金五圓を贈りたることあり同十三年官其善行を嘉みし特に銀杯一組金五圓を賜ひたるよし今や肉食妻帶は勿論錦に坐し財を貪りて尚ほ食欲飽くなきの俗僧も多きに鈴木氏の如き身を奉ずる清淨にして且慈善に厚きものは世に有り難かる可し。

夫れ如此にして初めて眞の佛徒たり、亦た寡に釋氏の敎に適すと云ふべし、滔々たる僧侶諸君乞ふ發心改悔せよ。

○自由敎育、自治敎會

新島襄氏將に死せんとするとき、枕邊の人に語りて云く、自由の敎育自治の敎會、此兩者並び行はるゝ時は邦家必らず万歲ならんと、送葬の際民友社員勝伯に請ふて此語を記し白旗二流を立てゝ吊ひたり、辭に云く、自由敎育自治敎會兩者併行邦家万歲、爲新島襄先生之靈と、前號に略記したるものは即はち此の謂ひなり。

○墓地番人

目下十万の圓頭僧侶は日夜何事を爲し居る乎、時事翁毎々之を心配して說法して曰く、汝ぢ小學校敎員たれよ、汝ぢ醫者となれよ、汝ぢ蠶を養へよと、此れ啻に時事翁一家の私言あるにあらず世人大抵之に賛成したり、知るべし諸君は現に社會改良に何等の功を爲さず殆んど墓地を守り廢寺に番をするの外に用なきにあらずや、諸君にして若し世人の勸告に隨ひ實益の仕事を爲さゞる限りは、正直に墓地を掃除し、鄭寧に死人を取扱ひ、切めては無用業中に一の有用業を行ひ、世に生存する丈けの役を爲すべし、此時に當ては諸君の見る所只だ一の死骨のみ何の暇あつてか亡者生前の職業身分宗敎等を穿索するを須ひん、神道家にせよ、耶蘇敎家にせよ、不幸にして回々敎徒なるにせよ、諸君は一樣に之を取扱ふべき筈なり、何んとなれば諸君は最早佛者として其役を爲し居るに非ず、墓地の番人として之を行ひ居るがゆへ也。今后の佛徒たるものは、彼の新島氏の葬式に會したる大坂佛徒有志者八田氏の如くなるへし、新島氏が基督敎信徒たるの故を以て其遺骸埋葬を謝辭したる南禪寺の和尚の如くなる勿れ。國の爲に博愛の爲めに大道の爲めに其名を以て所望す。

○ゾラの小說

英國に於ては前年ゾラの佛小說輸入を禁じたり、次に其反譯を公版するもの起り來り公衆は亦大に裁制したり、故に出版

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

者は其書をアウストラリアに輸送すると頗ぶる夥しかりしに、アウストラリアの税關吏亦た其の類中の醜惡なるものを通過せしめざりしと云ふ。

○愛媛縣新知事娼妓を見る

去廿二日道後に於ける新知事及兩書記官等の宴會には娼妓を招きたり。縣下正義の人は默々之を傍觀せし乎。

○廢娼記事

●●東京　廢娼壯年義會員は來る十一日に大運動會を催ふし十四日に懇會を開かるべし○男子矯風會に於ても近日廢娼大演說會を催うさるべし○嶋田三郎氏は今月末の頃ろ再たび廢娼演說を催うし總べての反對論に答へらるゝ筈なり○今週間は木鄉竹町教會、三田四國町教會、本鄉壹岐殿坂教會等に於て廢娼演說あり、各教會の青年いよ〳〵運動に着手す○巖本は微恙あり演述しがたきに付總ての預約を斷はりしより材料調査に着手すべし。

●●●●●鷗遊舘大演說　去一日の淺草鷗遊舘廢娼大演說は非常の盛會にて聽衆堂に滿ち椽側に迄で至れり、特に入江平岩等の辨士は長谷川泰氏の存娼論を凱切に痛擊し三々に破りたり然て長谷川氏の校舍濟世學舍に其旨を公告したるに付舍の生徒も多く來會したる由なれど頗る謹聽したり。

●●●●●福原祐四郎氏　同氏は名古屋より單身廢娼建議を提へ元老院に出頭し差出し且つ府下に於ける廢娼運動を一週間視察せられたり同氏は名古屋に於て初めて廢娼演說を催し寶生座にて一回笑福座に於て一回辨ぜられたるが各座主は最早廢娼論者に劇場を貸さぬよし也。

●●富山　越中富山に於ては井嶋宣孝、塚谷因親、吉川桝大郎の諸氏廢娼會設立に盡力中。

●●●●存娼請願　大坂の妓樓主人は東京芳原洲崎等の主人に協議し存娼請願を爲さんとを計畫せり、廢娼論の氣運彌よ切迫するの證なり。

●●●遊廓一揆　大和に廢娼會起り氣運益々隆盛なる爲め、奈良、木辻、元林院、岡町、洞泉寺、郡山等に在る諸遊廓の主人は初め代人を迭り后ち總勢一百人打そろひて玉置格氏(大和日報社長)方に押寄せ談判したりと云ふ。

●●山梨　同縣玉幡村の新海榮太郎氏外二三名發起し二百名の同志を得當時開會中の縣會に廢娼建議を出さんとし、議員撰擧權を有するもの及議員の紹君等に多く同志者を求め其願書に調印せんと準備せり。

●●勸告文　山形縣西田川郡鶴岡町に於ける私立荘内學事會の廢娼勸告委員は、滿天下の同胞に向て廢娼を勸告するの書と云へる痛切の文を廣く天下に配布したり。

●●●●大坂存娼會　大坂各地花街中の有力者謀り存娼會を設け會員を二種に分ち存娼に盡力するものを特別會員とし然らざるものを普通會員とし左の如き報酬恩惠を爲すよし、即ち特別會員は遊興の節五割引、普通會員は三割引と、驚くべきことにあらずや。

●●●神奈川縣　神奈川縣下にては其青年會の運動により彌よ盛んなり、安齋浮一郎氏の報に云く、

當地方即西多广郡にても到る所の青年會贊成して縣知事に向て建白するの見込にて最早瀬戸岡村及青梅町地方は已に調印濟と相成たり尤も當郡撰出の縣會議員中西仲太郎氏及下田伊左衛門及奔走家の岡崎喜縣會議員の瀬戸岡爲一郎氏等も大に贊成せられ爲に當郡にては大に勢力有之候青年にては瀬戸岡村の青年會幹事なる田中六之介氏尤も盡力せらる代繼村の秋川會にては瀬沼勝太郎氏志村寅一郎青梅青年會にては田島機三郎小澤直二郎奥野某羽村青年會にては下田伊左衛門嶋田六助五日市町青年會岸忠左衛門山口太三郎の諸氏盡力せり。

○廢娼論料

○寄日本政府諸公書(前號續)

我聯合會の目的に符合する眞正の改革は容易に之を成就し得べきにあらず唯だ歲月と堪忍の功を積んで而して後ち初めて其事業の擧くるを待つのみ生等立憲政體各國の形情を觀るに有志の徒は凡そ好機あれば之を失ふとなく勉めて賣淫政治の議を其議院に提出して以て或は論辯し或は調査し或は願望して止まざるものあり然れども我聯合會の主旨は直に政黨に訴へて其保護を請はんより寧ろ輿論に質し輿論を感化せんと欲するにあるなり故に專ら此道に依て以て黽勉之に從事するを怠らざるなり大貌利顚、墺地士雜利亞、新塞蘭土、喜望峰殖民地、香港の諸方に於ては公許賣淫制度を否とするの論說盛んに行はれ遂に其全豹を調査するの委員撰定を要するに至れり方今龍動に於て本題調査に從事するの英國議院特撰委員あり而して我聯合會員にして其委員中に加はるもの少からざるなり伊多利國に於て宰相涅個總剌氏嘗て同一の委員會を創立せしと雖も惜ゐかな未た十分なる結果を得ず半途にして解散するに至れり佛蘭西國に於ては巴里府會其委員を設け廣く賣淫の弊害を調査せしめ依て所得の證據を蒐集せしと雖も未だ全く其業を終らざるの勢なり瑞士國の數州稍州會は其州內の公許妓樓を閉店せしめ又同國新查德兒州政府は其州內に行はるゝ賣淫公許の制を廢し慈涅和府々官も亦之に着手中なり亞米利加合衆國は視察官を設け同制の各市府に入るとを防禦す我聯合會は使を派して米國人に賣淫公許の弊害を示し將さに其闖入豫防を爲すべきを戒めんとす。既に上文に陳述する所の概略を見は我聯合會事業の非常に緊要なるとは諸公閣下に明かなるべし若し日本在留の歐洲人にして改革を名とし閣下に献ずるに賣淫公許の制を以せば閣下該制を以て宜しからず且つ時世に後れたるものとし之を採用

する勿れ蓋し之を採用すると採用せざるは一に閣下の方寸にあらん閣下請ふ之を不問に附せ。

同順すれば千八百〇二年賣淫公許の制一たび巴里府に行はれて以來之を廢するの議を政府に献ずると再度一は佛蘭西第一帝政の時にありて同政府法制委員の意見に出づ二は千八百七十年英國勅撰委員の意見に出づ夫れ眞正の開明は社會の風俗制度をして無上の德義規律と併行せしむるにあり是を以て我聯合會は決して夫の不干涉の主義を閣下等に希望せざるなり我聯合會は貴國政府の識きに卓見を以て從來の賣淫認制を廢止せられたるの斷行を敬賀し止まざるなり貴國人民歐洲各國の人民に劣らず天稟の善性を保存し歐洲賣淫公許制を賤視するの情あるを示せり是れ誠に理なきに有らざるなり又貴國人民は其婦女を敬遇するの風あり婦女も亦自ら人の敬愛を享くるの美德あり生等切に閣下等に望む貴國の婦女をして醜辱を蒙るの禍難に罹るを知て之を問はざるの不幸あらしむる莫らんとを夫れ婦女を侮辱するものは亦其母を辱め其妻を辱め其姉妹を辱むるものと云ふべし而して到底其恥辱の墜る所は必ず男子の一身にあるのみ嗚呼男子たるものは勉めて婦女をして醜行に陷らしむるの過を防ぜぐの名法を講究せずして可ならんや貴國政府若し一方には賣淫公許の制を廢し一方には其賢明なる官吏をして婦女の貧困を救治するの治術を講ぜしむるあらば貴國政府は將さに其國をして仁惠たらしめ其人民をして人倫の上位に立つの臣たらしめ遠く國歩を高尚の位地に進むるあらんとす諸公閣下請ふ我聯合會の誠意以て明りに進呈するの論說文章等を嘉納せられ之に乙夜の覽を垂れ我厚意敬服の意ある所に背く勿らんとを偏へに祈る所なり恐惶敬拜

英國リバルプウル府パアクロチド三百四十八番地純利顛歐洲大陸醫一般之聯合會事務員長英國巴利門議員ラ井ト、チノレブル ジヱムス、スタンスフエルド。事務員ウ井リアム、シエーシ。英國巴利門議員パロアツトハルコルト。ジヨンストンケンブリツジ大學校教授法學博士スチワルド、ウ井リヤム、クロスフ井ルド。技術學士レベレントシ、エス、コオリングウード。英國巴利門議員ジヨン、トオマスリン、エミリー、パンチユリ女。タンナル女。ウヤカル女。醫學博士ジエ、ホルクベツキ、アパンス。醫學博士ウ井リヤム、カルトル。英國勅許地學教育員龍動府會計出納總裁ベンジヤミン、スコツト。本會無給書記員ジヨセフイン、バトラル女。伊多利國羅馬府シグノル、ギスセツプ、アーサン。荷蘭陀國ヘルドリング府及レツテン府養育院長エツデ、ピエルソンド。モルミエル女瑞士國新查德兒府州前日本在留瑞西特命全權公使博士エイメ、ハンボルト

頓首再拜

大日本帝國政府内閣者公
同元老院議長及議官諸公
閣下

女報

○皇女降誕　去る二十八日皇女御誕生ありしが三日御命名式を宮中に於て行はせられ御名を房子と命せられ玉ひ周宮と稱し奉る由に承る。

○御息所出發　故一品邦家親王妃景子殿下は京都に於て執行する故一品貞敬親王の五十年祭御參拜として去る二日出發せられたる由。

○從二位中山慶子　の方は不日從一位に進めらるゝ由に承る。

○汲泉會　跡見女學校出身の人々は今年より汲泉會と云へるを設け年々一回同窓會を開かるゝ由。

○國文國史講習所　飯田町五丁目に起る男女英學の制を用ひ午后二時間づゝ教授し上田万年、畠山健、高津鍬三郎、落合直文、佐藤定助、小中村義象、萩野由之、三上參次諸氏の講師たり。

○三島醫學士　通良君は小兒科中日本健全小兒の發育攻究の爲め帝國大學院へ入學許可せられたり。

○婦人矯風會　會頭に撰擧せられたる矢島かぢ子辭退せられたるに付いよく〳〵副會頭確定の爲め及び新規則議定の爲め來る十四日總會を開かるゝ由。

○禁酒同盟　日の丸發行者津田仙、北總禁酒會吉植氏、相澤禁酒會林翁氏等其他禁酒家の發起にて禁酒上の同盟會を設けられたり。

○矯風同盟　大議見元一郎、津田仙、佐々城豐壽、潮田ちせ、石島良三郎、婦姻壯年養會員、及び巖本等の發起にて矯風諸會の同盟を設け追々諸會に通じて其連合を計る由。

○下枝女史　跡見下枝女史は小學毛筆畫八冊を編輯し中央堂より出版す。

○德川秋子　千駄ヶ谷德川公邸に寄留中なる德川慶喜公の息女なる同子は此度清水得守氏と結婚せられたる由。

○貴婦人法話會　去る二十八日淺草本願寺に於て開會せし貴婦人法話會には會長三條公爵夫人副會長榎本子爵夫人を始め鷹司、柳原、岩村、岩倉、岩佐、花房、櫻井等の公侯伯子男爵の諸夫人大倉、安田、鳩地、成瀨等の令閨令嬢無慮二百余名にして清國公使の夫人も來會せし由なるが三條公爵夫人跡見花蹊女史の祝辭佐々木祐寛氏の答辭に小栗栖、南條兩氏の法話等ありて頗る盛會ありし由。

○高知中學女子部　の生徒總員は百十二名にして今度生徒の中へ總長、副長、世話掛等を置くとなり撰擧したるに當撰せしは左の如なりと云ふ。

總長楠島碧子、副長田所富世子、世話掛高島千鶴子、由井庇子、濱田爲子、齋藤幸子、藤田子、足立登子、島村光子、土居乙也子

○海老名みや子　夙に府下に在り婦人矯風會創立の時より之に盡力一と方ならざりし海老名みや子は横井小楠先生の長女にして極めて女子教育に熱心の人なり、熊本に赴れてより女學校を設け指揮して其擴張に盡力せられしが此頃に至り弥よ盛況に向ふとて去十一日其開校式を擧られたり。

○刺繡場　靜岡縣下富士郡小島村本市場の久保田作平氏は同地方に婦女の手工なきを憂ひ數名の同志と謀り同縣下沼津縣刺繡工場と協議の上同所より鈴木綾子を聘して　繡場を設立したるに忽ち七十餘名の應募者ありしを以て去月十九日盛大なる開業式を執行したりし由。

○英國女權擴張家死す　過般長逝せしロボルト、ブラウニング氏は詩人として廣く世人の知る所なるが氏は只に詩人として尊敬すべきのみならず女權擴張家として大に尊敬すべき人なりし然れば今回氏の長逝に就て英國の女子は深く追悼するといふさもありなん。

○女詩人　先にはジーン、インゼロー、バリエット、ブラウニングの如き女子の大詩人あり今亦サムエル、ソーサール夫人ありて其詩集を世に公にせりといふ。

○女子撰擧權　英國に於ては女子に撰擧權を與ふべしといふの說愈勢を得て之に關する同會々員も益增するといふ去年十二月の會に於ては男子と均しく女子にも撰擧權を得る迄は運動を止めざる事を議決せる由。

週報

○官令　三日法律第四號を以て北海道及町村制を施行せざる島嶼の國稅徵收の件を裁可公布せらる同日勅令第六號を以て海軍下士服役條例中改正の件同第七號を以て第五海軍區鎭守府位置設定の件を裁可公布せらる。

○宮庭　二十八日天皇陛下內閣へ臨御●同日皇女御降誕在らせらる●三十日宮中に於て孝明天皇御例祭を御執行あらせらる●三十一日天皇陛下內閣へ臨御●三日宮中に於て皇女御命名祭典を行はせらる

○政治　二十八日內閣會議に山縣、大山、山田、岩村の四大臣參集せり同日警視廳に於て署長會議を開けり同日元老院に於て水道條例第二讀會を開けり●二十九日山縣總理大臣は鹿鳴館に於て盛大なる夜食を催ふせり●三十一日內閣會議に山縣、山田、松方、榎本、靑木、の諸大臣參集せり●三日元老院に於て海軍刑法中改正に關する議案の第一讀會を開けり同日山縣總理大臣を始め山田、松方、西鄕、大山、榎本、靑木の各大臣登閣して會議を開きたり。

○外交　二十八日朝鮮公使歸朝す。

○文學　一日文學院の開院式を執行せり。

○會社　二十八日東京日本兩電燈會社は江東中村樓に於て合併の祝宴を開きたり●日本鉄道會社の線路中福島、仙臺間は線路破損の爲め三十、三十一の兩日發着を停止せり●三日茶業組合中央會議開かる。

○銀行　第六十國立銀行は三十一日を以て大藏大臣より營業停止を命ぜらる●東京銀行は去る一日府廳より認可の指令ありたり。

○新誌　一日より國民、江湖、横濱貿易の三新聞發行せらる。

○競鞦　木挽町の厚生館は一万二千七百圓にて印南丈助氏へ落札せり。

●水害義捐金領收書

各縣へ對し本社より配達したる義捐金に對し左の如く受取證及書簡到來致候、則はち一括して茲に輯錄し義捐者諸君に報告仕候　女學雜誌社

○奈良縣

縣下水害遭難者救恤として貴社募集義捐金六拾七圓八十四錢七厘銀行爲換券を以て今般御送付相成候に付き別紙領收證一葉差進候尤取扱都合も有之候條義捐者各自の金額姓名住所身分取調至急御回付有之度候也

明治廿三年一月十三日　奈良縣

東京麴町區富士見町二丁目一番地

女學雜誌社々長巖本善治殿

領收證

一金六拾七圓八拾四錢七厘

但吉野郡罹災者へ救助として寄附

右正に領收候也

明治二十三年一月十日　奈良縣

東京女學雜誌社々長巖本善治殿

○熊本縣

一金六拾七圓八拾四錢八厘

但震災被害者へ救助金

右正に受取候也

明治二十三年一月廿五日

東京麴町區富士見町二丁目一番地女學雜誌社御中

熊本縣會計主務官山下秀實

○福岡縣

一金六拾六圓八拾四錢八厘

右本縣非常の洪水に付被害者救助として送納相成正に致領收候也

明治二十三年一月廿二日　福岡縣

東京麴町區富士見町二丁目女學雜誌社々長巖本善治殿

別紙

管下非常の水災に遭遇せしを以て被害者賑救ノ爲義捐金募集之上寄贈相成候仁愛之段一同深く感銘可仕候先は被害者に代り御答禮旁受領證一葉及御送附候早々以上

明治廿三年一月廿二日

福岡縣書記官　猪鹿倉兼文

女學雜誌社長巖本善治殿

○和歌山縣

拜啓然は客年當管下未曾有之水災に罹り非常の慘況を極め候境遇御洞察被難者爲救恤義捐金御募集今回金六拾八圓八拾四錢八厘御回贈相成小官に於ても感佩の至りに存候則ち夫々分配致方取計可申候間各出金者へ宜敷御傳へ相成度依て別紙領收證相添へ右御挨拶旁[illegible]一[illegible]候不具

明治廿三年一月廿一日

石井和歌山縣知事

女學雜誌社長巖本善治殿

領收證

一金六拾八圓八拾四錢八厘

但水害者救恤金之内え義捐金

右正に領收候也

明治廿三年一月廿日

和歌山縣第二部會計課

女學雜誌社長巖本善治殿

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

○敎育時論第百七十二號目次　一月廿五日刊行

○社說　視學官及其人物

○敎育　手工敎育ノ精神（筱倉新治譯）○德育上ノ所感（高田義尹）○遊戲及體操（齋藤覺次郎）○倫理學管見（黑坂維莫）

○哲學　近世哲學史綱（蕨村居士）

○文藝　寄國祝（御製及皇后宮御歌）○和歌三首（高見廣川）○詩二篇（赤松定卿）○西洋哲學傳（橋本武譯）

○内外雜纂　かきよせ（五）●話の種（七）●歐米各國敎育視察法の大略●本年の敎育事業●實業敎育主義●小學敎師の研修すべき學科●學士會員村上英俊翁逝けり●小學手工科に就き父兄の感情●啞生發音用字の寄附●元吉田崎玉縣知事●就學督責に關する答案●勅令第百三十號●文部省訓令第一號●米國旅行十日間の記（隱酉生）●各地方通信

本誌壹部定價五錢郵稅五厘十部前金郵稅共金五拾三錢廿部前金郵稅共金壹圓見本ハ郵券三錢ヲ要ス

發行所　東京神田區柳原河岸第十四號地　開發社

理學士吉岡哲太郎先生主筆

豫修誌

●日就社第一版英和字彙代無進呈

每月二回發大サ五寸ニ七寸百頁餘大雜誌●●十一號發一年前金三圓郵稅二十四錢半年同一圓五十錢郵稅十二錢

見本入用一冊限郵券代用十六錢

本誌は總て專門學士の講述にかゝる萬國史、地理、物理、化學、漢學、代數、算術、英文法、講義ナショナル及ロングマン讀本解釋、入學試驗問題、學校規則、學話其他數項を掲けたる高等學校入學者豫修學科講義錄なり

●今般本誌を一層弘く及さんとを欲し非常なる損失を顧みす左の方法に由て購讀者に善良なる字書を呈す

本誌一號より一ヶ年分前金豫約者へハ二百名限り

英和字彙洋紙製本背革金字入美本實費一圓五十錢大サ五寸ニ七寸厚サ二寸五分印刷鮮明舶來

一部無代價進呈す

又半ヶ年前金豫約者へは日本博士全傳一部と呈す

●本誌一號以下欠號有之候處今般再版出來候間兼て御斷申候方は重ねて御申込有之度候

大賣捌所　東京神田南乘物町　吉岡書籍店

今般海軍々醫少監英國M・R・C・S・L・R・C・P・鈴木重道氏每週月金兩曜日午後一時半ヨリ三時迄本院へ出張診察被致候間此段廣告候也

明治廿三年二月

赤坂氷川町十七番地　赤坂病院

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●生徒募集廣告

今般通學生六十名を限り入學を許す志願の者は至急御申込あれ規則書御入用の方は郵劵二錢を添へ御通知あらは速に送附すべし

明治二十三年二月

南豐島郡角筈村百〇五番地

女子獨立女學校

普通衛生雜誌

普通衛生雜誌は通俗を旨とし可成平易の文章を用ゐたる上に六ヶ敷字には傍訓を附す故に誰にも讀み易し殊に新年を期して大に改良したり

本年一月十一日發行第十二號目次

論說　**心神攝養**（文學博士加藤弘之君）　**婚姻に就て**（醫學士笠原光興君）　**賜　杢扶斯**（醫學博士大澤謙二君）　**流行時の心得**

新報五件　**社說**　正月　**雜錄**　明治廿二年中の衛生事項（醫學士古川榮君）●餅（醫學士坪井次郎君）●酒（富士川游君）

學會紀聞　大日本私立衛生會●大日本婦人衛生會●私立大學通俗衛談會●國政醫學會●米國公衆衛生會第十七年會●卵黃白平●化學的日本酒製造法（以上二件醫學士坪井次郎君答辯）

問答　平卯十數件　**通信**　三件　**彙報**

附錄　**普通衛生學**　醫學士坪井次郎君講述●毎號八頁宛掲載し後合綴す

●**定價**　一冊金六錢郵稅五厘●半ヶ年分前金一円金卅七錢●一ヶ年全七十四錢郵稅共

東京神田區東紺屋町四十八番地

普通衛生雜誌社

小中村淸矩先生著

歌舞音樂略史

全三冊　價金七拾錢

右本社に於て取次賣捌候間御注文の程奉願上候

女學雜誌社書籍部

注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麴町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

發兌

二月。	一日	八日	十五日	廿二日	
三月。	一日	八日	十五日	廿二日	三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日	

定價

一冊。六錢　郵稅。五厘　（但府内無郵稅）
十冊。五十八錢郵稅。五錢　（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分　二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1,56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan

明治二十三年二月七日印刷
明治二十三年二月八日出版

東京麴町區富士見町二丁目一番地
發行所　**女學雜誌社**

東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留
編輯兼發行人　巖本善治

東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留
印刷人　森田豐

遞信省認可